

教育学学位プログラム(博士前期課程)

専門基礎科目(教育基礎科学)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAA01	日本教育史特講	1	2.0	1・2	通年	応談	平田 諭治	日本教育史のベーシックな知見を習得しながら、歴史的視野から教育や学校の系譜について説明することができるようになるのが目標である。前近代および近代以降の日本の教育や学校について巨視的に概観し、ナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムの概念とその視点を獲得しながら整理する。具体的には、日本教育史およびナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムに関する基礎的な文献を講読し、受講者による発表と討議によって検討する。	
OATAA02	日本教育史演習	2	2.0	1・2	通年	応談	平田 諭治	日本教育史に関する論文・資料に習熟しながら、歴史的視野から教育や学校について思考し、展望することができるようになるのが目標である。ナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムの研究成果にも学びつつ、近現代日本の教育や学校について多角的に再検討を加え、専門的な知見を深めていく。具体的には、日本教育史およびナショナリズム・オリエンタリズム・コロニアリズムに関する専門的な文献を、受講者による発表と討議によって検討する。	
OATAA03	教育哲学特講	1	2.0	1・2	通年	応談	平井 悠介	個性の育成と社会性の育成をはじめとした、教育を取り巻く価値の二項対立に注目しながら、現代の教育に関わるさまざまな問題と、教育のあり方とを検討していく。その際、近代教育理論・教育思想、特にリベラリズム思想に課題解決の糸口を求めていき、問題の本質を深く探究していく。	教室：人間系学系B棟B520
OATAA04	教育哲学演習	2	2.0	1・2	春AB秋AB	木2	平井 悠介	現代の教育事象を分析する教育哲学関係文献の読解を主眼に置き、教育をめぐる価値対立を乗り越えるための教育哲学的思考を育成する。授業前半では、教育哲学、および教育学理論の基礎知識を理解し、教育現実を分析する視点の獲得を目指す。授業後半では、近年の教育哲学研究の成果を講読することにより、教育現実と教育思想の接合について理解することを目指す。	教室は人間系学系B棟B520
OATAA05	生涯学習・社会教育学特講	1	2.0	1・2	春AB	火5,6	上田 孝典, 丹間 康仁	近年における社会教育・生涯学習をテーマとした最新の研究動向を理解し、基礎的な理論と方法を習得することを目的とする。具体的には、社会教育・生涯学習をめぐる学習理論研究、歴史研究、法制度の改正を踏まえた政策動向、地方自治体における生涯学習行政、住民自治や市民活動の展開、社会教育施設をめぐる実践動向など、受講者の関心に基づいた先行研究を取り上げ、討議によって検討を行う。このことを通じて社会教育・生涯学習の研究的視点を習得し、幅広い知識と方法論を身に付ける。	教室：人間系学系B棟B415
OATAA06	生涯学習・社会教育学演習	2	2.0	1・2	秋AB	火5,6	上田 孝典	社会教育・生涯学習の公教育としての意味について検討することで、歴史的に構築されてきた「権利としての社会教育」の思想についての理解を深める。学校教育と並び社会教育が公教育として制度化された背景には、社会教育・生涯学習が「権利」として捉えられてきた背景がある。こうした理論的基盤を構築してきた基本文献を講読する。具体的には、乗杉嘉壽、吉田熊次、春山作樹、下村湖人、小尾範治、川本宇之介、宮原誠一、平沢薫、吉田昇、津高正文、小川利夫、藤岡貞彦、小林文人、島田修一ら戦前から戦後初期にかけて社会教育研究における理論構築を担った基本文献を検討する。検討を通じて、権利としての社会教育・生涯学習の今日的意味と公教育の役割について考察を行う。	教室は人間系学系B棟B415
OATAA07	教育制度学特講	1	2.0	1・2	通年	応談	藤井 穂高	学校間の移行と接続、教育制度論におけるアーティキュレーションの意義と課題について、学術的な研究に基づき説明できることを目標とする。具体的には、教育制度論におけるアーティキュレーションにかかる国内外の先行研究を取り上げ、学校間の移行と接続について、その意義(なぜ必要なのか)、内容(接続において何が問われるのか)、課題(克服すべき点)などに関する学術的成果を概説する。具体的な内容は、学校体系の基本理論、小1プロブレムにおける日本の問題状況、「接続期」の設定とその意義、義務教育学校、中等教育学校、諸外国の改革動向などである。	教室：人間系学系B棟B516

OATAA08	教育制度学演習	2	2.0	1・2	春AB秋AB	水3	藤井 穂高	今日の我が国及び諸外国の教育改革における資質・能力論の現状とその理論的根拠について学術的研究に基づき説明できることを目標とする。具体的には、今日、我が国及び諸外国の教育政策において、資質・能力(コンピテンシー)論に基づく改革が主流となりつつある。そうした中で、現状の改革動向を踏まえうえで、その理論的根拠がいかなるものかを、関係文献の読解を中心に検討する。具体的には、奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』、国立教育政策研究所『資質・能力[理論編]』、OECDのキー・コンピテンシー論、グリフィン他『21世紀型スキル』とファデル他『21世紀の学習者と教育の4つの次元』である。	教室は人間系学系B棟B516
OATAA09	学校経営学特講	1	2.0	1・2	春AB秋AB	木4	濱田 博文	本授業の内容は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の学校経営に関する理論と現代的課題について学び、学校経営に関する研究の成果と課題について討議をおこなう。まず、学校経営に関する基礎理論およびその歴史的展開過程を、代表的な文献の講読を通じて理解する。次いで、小学校・中学校・高等学校の学校経営についての政策と実践に関する様々な文献や調査報告書等を参照しながら、現代的な課題について討議する。それらを踏まえて、これまでの学校経営研究の成果を確かめ、今後求められる研究課題について考える。	教室：人間系学系B棟B523/524
OATAA10	学校経営学演習	2	2.0	1・2	春AB秋AB	応談	濱田 博文	「これからの学校、学級、学びはどのようにあるべきか。子どもの発達をどのように支援すればよいのか。」このような問いから、学校経営、学校改善を中心にしながらも、関連するトピックにも視野を広げて、共に学び、考える授業です。当然、学校が変わるためには、校長の役割だけでなく、国や自治体の教育行政の役割も大きいです。一方、学校におけるカリキュラム、教師の専門性や力量は重要なトピックです。本年度は、社会情動的学習とコンピテンスの育成、ウエルビーイング、エージェンシーを着眼点として、様々な文献等を通して、学んで行く予定です。海外の動向にも目を向けて、同時に国内の実態にも着目し、教育学としての学びを深めていきます。	教室：人間系学系B棟B516 教育学学位プログラムのどのサブプログラムの学生の受講も歓迎します。授業の使用言語は日本語です。
OATAA11	比較・国際教育学特講	1	2.0	1・2	通年	応談	タスタンベコワクアニシ	この授業では比較教育研究の理論と実践をテーマとし、比較教育研究の方法論を学び、多様な教育問題を多様なアプローチで研究できることを把握することを目標とする。具体的には、比較教育学研究は地域、国、言語圏、また研究の主体と対象によってアプローチが異なることの理由について検討する。欧米諸国、東洋諸国、旧ソ連諸国における研究方法の特徴を整理する。理論書を基に、比較教育研究の目的、意義、対象、方法について学び、具体的な実践例を分析し、検討する。授業形態は講義、学生の個別発表とグループディスカッションである。	教室：人間系学系B棟B520
OATAA12	比較・国際教育学演習	2	2.0	1・2	春AB秋AB	木3	タスタンベコワクアニシ	この授業では比較・国際教育学研究における諸理論を学び、研究の理論的枠組みの選定に関する理解を深める。比較・国際教育学研究における基礎理論、ポスト諸理論、理論的適応、インタディンプリナリ・アプローチなどの位置づけについて把握し、これらの諸理論の違いを理解する。具体的には“The Bloomsbury Handbook of Theory in Comparative and International Education”(Bloomsbury, 2021)を解読し、諸理論の知識を深め、英語での学術論文の書き方を学ぶ。	教室は人間系学系B棟B520
OATAA13	道徳教育学特講	1	2.0	1・2	通年	応談	川上 若奈	道徳教育学研究を行う上で素地となる知識や見方の獲得をめざす。具体的には、道徳教育学研究として本質的な問いや考え方などについて学ぶために有益と思われる著書や論文等を選定し、それを精読することで改めて道徳教育学分野における基礎的な用語の確認や道徳教育学研究として求められる問題などについて検討していく。	教室：人間系学系B棟B520
OATAA14	道徳教育学演習	2	2.0	1・2	通年	集中	田中 マリア	自らの関心のある課題を道徳教育学研究として掘り下げていこうとする姿勢や能力の育成をめざす。具体的には、受講者の関心のある課題に関連した学術論文の中から道徳教育学研究として掘り下げていこうとする上で適していると思われる学術論文を各々選定し、相互に紹介し合う。受講者はこの作業を通して自己の関心のある課題に関する研究動向を把握するだけでなく、それらを道徳教育学研究の系譜として掘り下げていこうとする意識や道徳教育学研究として掘り下げていく際の視点や論点、勘所などを身につけていく。	教室：人間系学系B棟B520

OATAA15	カリキュラム論特講	1	2.0	1・2	通年	応談	田中 怜	<p>本授業では国外のカリキュラム研究について専門的な知見を深めるため、ドイツ語の外書講読を行う。</p> <p>ドイツの教育学は、かつて日本の「輸入教育学」の本柱と目され、「ドイツ語を知らざるは教育学者に非ず」の時代もあった(はずである)。ところが時代が変われば学問の流行り廃りも起きる。今では国内の「ドイツ語読み」も相対的に少なくなり、中でも教授学研究者ともなれば、グツと数が減ってしまった。</p> <p>本特講は、そんな「絶滅危惧種」のひとりによる、ドイツ教授学の伝承実践のひとつである。いつか、この仕事を引き継いでくれる人間が出てくること、それが担当者のささやかな願いである。</p> <p>ドイツの教授学関係の文献を原語で読むことができる授業は国内の大学の中でも数少ない(ほぼ唯一)であると自負しているため、もし関心がある人がいれば、初学者でも門戸を叩いてほしい。ただし翻訳経験の少ない人間からすると相当の根気を要することになる。最初は1行訳すのに1時間以上はかかるだろう。それなりのモチベーションが求められることになるので、覚悟はしてほしい。</p> <p>※履修希望者は4月中に担当者にメールでその旨を申し出てほしい。4月以降の参加も可能ではあるが、途中参加となることを承知のうえ、担当者にその旨のメールをまずは送ってきてほしい。</p>	
OATAA16	カリキュラム論演習	2	2.0	1・2	春C	木3-6	田中 怜	<p>本演習は、演習担当者(田中)が専門とするドイツの一般教授学(Allgemeine Didaktik)とカリキュラム研究(Curriculumforschung)を題材として取り上げ、ドイツ教授学の学術的伝統、諸流派の特徴、アクチュアルな論争点などを検討の俎上に載せる。</p> <p>2025年度はエヴァルト・デアハルト(松田充・宮本勇一・熊井将太(訳))(2024)『教授学への招待』(春風社)をテキストにして、ドイツ教授学の伝統と思考様式について取り扱う。実施方法は受講者数との兼ね合いで決めるが、指定文献を1ページずつ、1行ずつ、1文字ずつ輪読していきたくと考えている。文中に登場する色々な術語を一つひとつ咀嚼しながら理解し、しばしば原文を確認しながら文意を捉えていく。地味で遠回りで「タイパ」と無縁な時間にしていく予定である。</p> <p>なお受講者はドイツ語を読むことができる必要はない(あるに越したことはない)が、未知の概念や術語について積極的に咀嚼し受容できる構えを期待したい。</p>	
OATAA17	教育方法学特講	1	2.0	1・2	春AB秋AB	火2	樋口 直宏	<p>教育方法学に関する文献講読を通して、研究動向と課題について考察する。これらを通じて、学習指導や授業分析に関する基礎的な知見を習得できるようになることを目標とする。具体的には、学習指導スキルに関する諸理論について、文献を読み進めながら発表および討論を行う。また、学校現場における授業観察や学習補助にも携わることがのぞまれる。これらの取り組みを通じて、理論構築ならびに実践研究のデータ収集をあわせて行う。</p>	教室は人間系学系B棟B410
OATAA18	教育方法学演習	2	2.0	1・2	春AB秋AB	火6	樋口 直宏	<p>受講者各自の発表と討論を通して、教育方法学に関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学および教職に関する応用的知見を習得できるようになることを目標とする。具体的には、授業分析および指導効果要因に関する理論等、受講者各自の関心のあるテーマについて、発表および討論を行う。また、学校現場やビデオにおける授業観察を取り入れ、授業分析の際にも携わる。これらの取り組みを通じて、学校における実践方法についても習得できることを期待したい。</p>	教室：人間系学系A棟A426
OATAA19	キャリア教育学特講	1	2.0	1・2	春C	月3-6	藤田 晃之	<p>今日のキャリア教育推進施策の特質と課題を明らかにすることを通じて、今日の研究課題についての理解を深めることを目標とする。具体的には、キャリア教育に関する基礎的な理解を前提としつつ、今日のキャリア教育推進施策関連文書を読み解くことを通じて、キャリア教育分野の研究課題を検討する。</p>	教室：人間系学系B棟B520
OATAA20	キャリア教育学演習	2	2.0	1・2	春AB秋AB	随時	藤田 晃之	<p>今日的な研究課題に関する理解を前提として、学校におけるすべての教育活動を通じたキャリア教育の実践の在り方について理解を深め、研究者としての力量形成を図ることを目標とする。</p>	教室：人間系学系B棟B520

OATAA21	教育社会学特講	1	2.0	1・2	春AB秋AB	月6	太田 知彩	最新の教育社会学研究のリーディングスの講読を通じて、グローバルに展開される教育社会学研究の多様な視座を身に着けることを目的とし、国内外の教育社会学の多様化する研究領域・理論的視座・方法論を学ぶ。具体的には、主にJenny Ozga編著『Sociology of Education』(Sage)を使用し、いくつかの論文を選び講読し、討論する。適宜、関連する日本語文献も紹介しながら、1)教育社会学の理論と方法、2)教育政策、3)教育・文化・アイデンティティ、4)学校教育の4つのテーマを議論する。	教室：人間系学系B棟 B516
OATAA22	教育社会学演習	2	2.0	1・2	春AB秋AB	火3	徳永 智子	国内外の教育社会学や関連領域における理論・概念を学び、さまざまな教育現象を分析する視点や方法を身に着けることを目的とし、文献を読みながら、教育社会学研究の課題設定、問いの立て方、研究方法などについて学び、最終的には各受講者が学んだ視点や方法を取り入れた研究構想を発表する。具体的には、受講者の関心に合わせて、学校教育、教育問題、マイノリティと教育、グローバルゼーションと教育、教育政策など多様な研究領域の文献を読み、教育社会学研究の成果や課題を議論する。毎回、学生が文献に基づく報告をし、全員で討論する。	教室は人間系学系B棟 B520(集中講義の教室 は別途案内予定)
OATAA23	高等教育論特講	1	2.0	1・2	春AB秋AB	木6	田中 正弘	授業のテーマは、大学教育の成果である。日本の大学教育に関するテキスト講読を通して、現在の課題(教育改革や質保証の在り方など)の解決方法を多国籍比較の観点から議論することである。授業の到達目標は次の3つである。 (1)日本の大学教育の特徴を説明できる。 (2)現在の課題を発見し、その課題が生じた理由を論じられる。 (3)課題の解決方法を他国の教育をモデルに提示できる。	教室は人間系学系B棟 B520
OATAA24	高等教育論演習	2	2.0	1・2	通年	応談	田中 正弘	授業のテーマは、学歴・学力格差である。春学期は、学歴・学力格差に関するテキストの講読を通して、格差はなぜ、誰にどのような形で生じているかの理解を深める。そして、その格差を埋めるためにどのような改革をすべきと考えられているのか、どのような改革がどのような結果をもたらしたのかについて、学生・教員を交えて議論する。秋学期は、個々の学生が現在の大学の課題をそれぞれ探求し、その課題が生じた理由を文献調査を踏まえて、レポートにまとめる訓練を行う。そして、最終レポートでは、独自に設定した課題の解決方法を他国の制度をモデルとして提示する。授業の到達目標は次の3つである。 (1)日本の学歴・学力格差の特徴を説明できる。 (2)学歴・学力格差の課題を発見し、その課題が生じた理由を論じられる。 (3)課題の解決方法を他国の制度をモデルに提示できる。	教室は人間系学系B棟 B523/524
OATAA25	特別活動学特講	1	2.0	1・2	春AB秋AB	月2	京免 徹雄	特別活動(学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、学校行事、クラブ活動)は、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」のための資質・能力の育成を目指す取組である。 特別活動を「対象」とした研究は、これまで少なくない(ただし多くもない)蓄積があり、学級活動や生徒会活動といった個別の事象に対して教育学、歴史学、心理学、社会学といった様々な学問分野からアプローチが展開されてきた。しかし、特別活動を1つの体系的な学問として論じたものはないだろう。 そこで本講義では、既存の実践や研究の成果をふまえつつ、特別活動を学問として成立させるための基盤について考えてみたい。特に特別活動が日本においてある意味「ガラパゴス」的に発展してきたことを鑑みて、西洋とは異なる東洋の文化や価値の視点からその教育的意義を再評価することを試みる。キーワードは、「関係性の教育学」である。 春学期は、「個と集団をめぐるメカニズム」をテーマに、主に学級活動・ホームルーム活動について扱う。秋学期は、「子どもの自治と民主主義」および「日常と非日常の関係」をテーマに、主に児童会活動・生徒会活動と学校行事について検討する。両学期とも前半は講義を行い、後半はテーマに沿った形でグループによる発表とディスカッションを行う。	教室は人間系学系B棟 B520

OATAA26	特別活動学演習	2	2.0	1・2	通年	応談	京免 徹雄	<p>特別活動（学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、学校行事、クラブ活動）は、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」のための資質・能力の育成を目指す取組です。</p> <p>一方で、学問としての特別活動学は、「関係性（あいだ）の教育学」と言い換えることができるでしょう。その中心は、個人と個人、あるいは個人と集団といったヒトの関係性にありますが、同時に教科と教科外活動、非日常的活動と常時活動といったカリキュラムの関係性や、学校と社会といった組織や空間の関係性も射程に収めています。子どもを教育の主体として中心に置きつつ、いかなる関係性を編むことが個人と社会の幸福につながるのか、ホリスティックに追究していくことに学問的特質があります。しかし、学問としての基盤が確立しているとは言いがたく、発展途上にあるといえるでしょう。</p> <p>本年度の授業では、まず日本特別活動学会監修『特別活動がつくる学校の未来』を第1のテキストとして、特別活動の現状と課題について、国内研究および国際的な視点から批判的に検討します。その上で、ガーゲンの『関係からはじまる』を第2にテキストとして読み進め、社会構成主義の知見に基づきながら「関係性の教育学」の構築を試みます。社会構成主義の第一人者ガーゲンが、独自の関係論から対立を乗り越える世界を記述した同書は、アメリカ出版協会PROSE Awards（心理学部門）を受賞しています。</p> <p>社会情動的スキルを効果的に育成する日本型教育モデルとして近年、脚光を浴びている特別活動（Tokkatsu）ですが、多様性や創造性といった視点が弱くグローバル社会に対応できていないことや、学校現場の実践知（暗黙知）に強く依拠する「理論なき実践」であり、各教師・学校による取組の差が大きいといった限界も指摘されています。本授業では、ガーゲンの論議を通して海外の社会構成主義の知見から示唆を得ることで、こうした課題を克服する道筋について考察していきます。</p>	教室：人間系学系B棟 B520
OATAA27	教師教育学特講	1	2.0	1・2				<p>教師教育に関する実践と研究の動向を学ぶ中で、主要な論点と研究課題について理解することを目指す。特に、教師教育に関わる政策・制度・文化の変遷と教師教育研究の展開を同時に把握するための資料収集と文献講読を行う。具体的には、教員養成・採用・研修に関わる政策文書や各種調査報告書、その他の資料をもとに実践的な動向を把握する。さらに教師教育に関するいくつかの基本的な文献を講読しながら、それらの内容を批判的に吟味していく。これらの作業を通じて、教師教育に関わる実践と研究の相互関係をつかむと同時に、今後の重要な研究課題について考えを述べられるようになることを目標とする。</p>	教室：人間系学系B棟 B520 西暦偶数年度開講。
OATAA28	教師教育学演習	2	2.0	1・2	春AB秋AB	火4	朝倉 雅史	<p>分野横断的に進められている教師教育研究の展開と蓄積を整理しながら、その成果はもちろん研究の目的や方法の特質について学ぶ。特に、教員の養成・採用・研修について何が問題視されてきたのか、そのことに対してどのような研究が取り組まれてきたのかについて討議を交えながら考える。さらに、実証的な研究で行われる調査方法やデータの収集・分析に関する基本的な知識を身につけることで、どのような知見がどのような手続きによって導き出されてきたかを理解する。授業では、教師教育研究に関する基本的な概念と方法について理解した上で、各々の興味関心を研究課題に練り上げ、発表できるようにすることを目標とする。</p>	教室：人間系学系B棟 B520 西暦奇数年度開講。
OATAA29	教育政策学特講	1	2.0	1・2	春AB秋AB	火3	古田 雄一	<p>本授業では、今日の教育政策の課題や次代の教育政策のありようについて、国際的な視野も取り入れながら考究する。具体的には、教育政策に関する文献（必要に応じて英語文献も含む）を検討し、教育政策を捉える原理的・理論的視点や、教育政策が実際に教育実践や子どもに与える影響等を含む、国内外の実証的研究の知見に学び、子どものウェルビーイングとより良い社会の実現に資する教育政策のありようを考察する。</p>	教室：人間系学系B棟 B516 西暦奇数年度開講。

OATAA30	教育政策学演習	2	2.0	1・2				本授業では、教育政策の理論や研究動向を検討し、現代の教育政策について考察を行う。具体的には、まず、教育政策の動向を理解し、分析するうえで有益となる概念、政策選択の対立軸、研究の知見などについて、テキストの講義を通じて学ぶ。加えて、そうした視点も参照しながら、関連するトピックを取り上げた文献を検討し、さらに理解を深めていく。これらを通じて、現代の教育政策を多角的に深く分析し、今後の課題や展望を考察することを目指す。	教室：人間系学系B棟B516 西暦偶数年度開講。
OATAY01	社会の課題と教育政策	4	1.0	1・2	春C夏季休業中	応談	古田 雄一、小松 孝太郎、名畑目 真吾、勝田 光、唐木 清志、徳永 智子	地球規模課題の解決に向けての社会的な課題を検討するために必要な教育政策に関する基礎的事項について理解する。特に、現代社会における教育の役割及び教育政策の枠組みについて学ぶとともに、社会課題を解決するための教育政策と実践の具体的事例を知る。	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型) 世界展開力事業 CAMPUS-Asia6の参加学生のみを受講対象とする。英語で授業。
OATAY02	地球規模課題の実態	4	1.0	1・2	春C夏季休業中	応談	山本 容子、田中 マリア、國分 麻里、梅津 静子、辻村 真貴、廣田 充、内田 太郎、中村 潤児	この授業を通して、各国・各地が抱える地球規模課題を見つめる。まず、持続可能な開発目標 (SDGs) をもとに、地球規模課題とは何かについて把握し、基本的な視点を共有する。その後、特に教育学、環境科学、物質科学の視点から、特に、人間・社会・国家間で生起する諸課題、自然環境と人間活動の間で生ずる諸課題、新たな科学技術開発が必要な諸課題について検討する。 -教育学学位プログラム：人間・社会・国家間で生起する諸課題； -環境科学学位プログラム：水、生態系、災害・防災に関わる諸課題； -国際マテリアルズイノベーション学位プログラム：新たな科学技術開発が必要な諸課題	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型) 世界展開力事業 CAMPUS-Asia6の参加学生のみを受講対象とする。英語で授業。
OATAY03	社会の課題と教育政策	4	1.0	1・2	秋AB	応談	古田 雄一、小松 孝太郎、名畑目 真吾、勝田 光、唐木 清志、徳永 智子	地球規模課題の解決に向けての社会的な課題を検討するために必要な教育政策に関する基礎的事項について理解する。特に、現代社会における教育の役割及び教育政策の枠組みについて学ぶとともに、社会課題を解決するための教育政策と実践の具体的事例を知る。	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型) 英語で授業。受講定員数25名を超えた場合には抽選とする。
OATAY04	地球規模課題の実態	4	1.0	1・2	秋AB	応談	山本 容子、田中 マリア、國分 麻里、梅津 静子、辻村 真貴、廣田 充、内田 太郎、中村 潤児	この授業を通して、各国・各地が抱える地球規模課題を見つめる。まず、持続可能な開発目標 (SDGs) をもとに、地球規模課題とは何かについて把握し、基本的な視点を共有する。その後、特に教育学、環境科学、物質科学の視点から、特に、人間・社会・国家間で生起する諸課題、自然環境と人間活動の間で生ずる諸課題、新たな科学技術開発が必要な諸課題について検討する。 -教育学学位プログラム：人間・社会・国家間で生起する諸課題； -環境科学学位プログラム：水、生態系、災害・防災に関わる諸課題； -国際マテリアルズイノベーション学位プログラム：新たな科学技術開発が必要な諸課題	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型) 英語で授業。受講定員数25名を超えたら抽選とする。
OATAY11	教育学課題研究I	4	1.0	1・2	秋AB	応談	朝倉 雅史、濱田 博文	人権、貧困、差別、ジェンダーの問題、さらに宗教対立、紛争、難民に関する問題等、人間・社会・国家間で生じる地球規模課題について、教育学研究の立場からのアプローチのあり方を探り、地球規模課題に対する人間形成上のから研究課題についての理解を深める。	世界展開力事業 CAMPUS-Asia6の参加学生のみを受講対象とする。英語で授業。 英語で授業。
OATAY12	教育学課題研究II	4	1.0	1・2	秋AB	応談	清水 美憲	人権、貧困、差別、ジェンダーの問題、さらに宗教対立、紛争、難民に関する問題等、人間・社会・国家間で生じる地球規模課題について、教育学研究の立場からのアプローチのあり方を探り、地球規模課題に対する人間形成上のから研究課題についての理解を深める。	世界展開力事業 CAMPUS-Asia6の参加学生のみを受講対象とする。英語で授業。 英語で授業。
OATAY13	教育学課題研究III	4	1.0	1・2	秋AB	応談	藤田 晃之	人権、貧困、差別、ジェンダーの問題、さらに宗教対立、紛争、難民に関する問題等、人間・社会・国家間で生じる地球規模課題について、教育学研究の立場からのアプローチのあり方を探り、地球規模課題に対する人間形成上のから研究課題についての理解を深める。	世界展開力事業 CAMPUS-Asia6の参加学生のみを受講対象とする。英語で授業。 英語で授業。
OATAY21	課題解決特別演習A	6	3.0	1・2	秋AB	応談	清水 美憲、藤田 晃之、平井 悠介、京免 徹雄、梅津 静子、古田 雄一、金 玆辰、田中 怜、濱田 博文	地球規模課題に関する教育政策立案に関して、様々な観点から検討するために、様々な社会環境の中でのフィールドワークを展開する。例えば、学校現場における諸課題に関する調査、研究学園都市内の研究機関や国立教育政策研究所の研究者・政策立案者を対象とするインタビュー等を実施し、課題解決に関する演習を行う。	世界展開力事業 CAMPUS-Asia6の参加学生のみを受講対象とする。英語で授業。 英語で授業。
OATAY22	課題解決特別演習A2	6	3.0	1・2	秋ABC	応談	清水 美憲、藤田 晃之、濱田 博文	地球規模課題に関する教育政策立案について様々な観点から検討するために、多様な社会的環境の中でのフィールドワークを展開する。派遣先大学でのメンター教員の指導の下、現地における教育政策形成過程の現状と課題や、学校現場における教育活動の現状と課題を掘り下げるフィールドワークを実施し、課題解決に関する演習を行う。	世界展開力事業 CAMPUS-Asia6による派遣学生が現地で科目を受講する 英語で授業。

OATAY31	課題解決提案特別演習	2	1.0	1・2	春季休業中	集中	清水 美憲, 藤田 晃之, 濱田 博文	地球規模課題に対するアプローチと成果を各専門分野の垣根を越えて学際的に学び合う機会として、受講者が検討した課題解決提案をオンライン国際学生カンファレンス (CA6 Final Presentation) で発表・討議する。このカンファレンスの活動を通して、アジア地域における地球規模課題の要因を多面的に理解し、学際的な協働を通じて地球規模課題の解決に資する教育政策を策定するための方策について検討し、地球規模課題の解決に資する教育政策の提案を含む最終報告を作成・提出する。	英語で授業。世界展開力強化事業CAMPUS-Asia6の参加学生のみを対象とする。2024年度は2/19・20の2日間実施。 英語で授業。
OATAY41	海外教育調査実習	7	1.0	1・2	夏季休業中	集中	藤田 晃之	海外の大学を訪問し、訪問国の教育事情を学ぶとともに、大学教員並びに大学院生との学術交流を通して、研究力の向上を目指す。	

専門基礎科目(学校教育・SL)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATAB01	学校教育論	1	2.0	1・2	秋AB	火5,6	藤井 穂高	本授業のテーマは「学校教育の制度論」である。到達目標は、学校教育制度に関する今日的な基本課題について学術的な根拠をもとに説明できること、及びその課題について受講生が自分なりの考えを深めることができることである。学校教育に対しては様々なアプローチが可能であるが、本授業は、学校教育を「枠づけているもの」(すなわち制度)という観点から、学校教育の基本課題を取り上げ、検討する。なお、本授業は2コマ続きであり、1コマ目は受講生による報告・協議を含む「協調学習」の方法をとる。	協調学習の授業形態をとっているため、受講の選択の際には参加型の授業であることに注意すること 対面
OATAB02	学校心理学	1	2.0	1・2	春AB	水1,2	飯田 順子	授業の目標は、次の4つである。 1学校心理学の基礎概念について理解する。 2学校心理学が扱う領域に含まれる様々なトピックについて理解を深める(不登校、発達障害など)。 3学校心理学のなかで行われている最新の研究について学ぶ。 4心理教育的援助サービスの技法(アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション)を学ぶ。 子どもが出会う問題状況の解決や成長の促進を目指す援助サービスの理論と実践を支える学問体系である学校心理学について、その理論や心理教育的援助サービスの実践について講義で学ぶと同時に、学校心理学の中心概念である「援助サービス」についてロールプレー等を交えて実践力を高める。	OATB132と同一。 対面(オンライン併用型)
OATAB03	スクールリーダーシップ論	1	2.0	1・2	春AB	月1,2	濱田 博文	小・中・高等学校・特別支援学校等を組織として捉えることの意味を理解し、学校組織の特徴を踏まえた有効なリーダーシップのあり方について理論的・実践的な知見を獲得することを目標とする。具体的には、現代の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等における学校経営の課題を学ぶとともに、最近の研究成果に基づいて、学校組織の特性を踏まえたリーダーシップのあり方について考察する。学校を「組織」として捉える意義と、組織としての学校の特性・独自性を確かめ、実践事例を検討することを通じて、学校経営の改善を推進するために有効なリーダーシップの条件について考えたい。	対面
OATAB04	青年の発達	1	2.0	1・2	秋AB	火1,2	佐藤 有耕	授業の目標は、次の3つと発展的な目標になる。 1青年、青年期、青年心理学についての理解を深めること 2青年心理学の研究パラダイムについて理解すること 3青年の発達を理解するための多様な観点を身につけること 発展的には、青年の発達に関する学習を通して、青年に対する理解と支援の水準を上昇させること。 このために、青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年の発達に関する知見を深める。	小学校専修免許対応はR2年度以降の入学生のみ。 対面

OATAB05	国際・多文化教育論	1	2.0	1・2	秋AB	木1,2	タスタンベコフ クアニシ	学校で多文化状況(外国人、「障がい」を持った子どもなど)が進む中で、形式的平等・実質的平等/平等(equality)と「公正さ」(equity)をテーマにして、望ましい資源配分や対応の在り方を考えることができる資質・能力を身につけることを目標とする。 国際・多文化教育は公正のための教育(Equity pedagogy)である。多様な文化的背景(障がいの有無、性別、民族、言語、宗教など)をもつ子どもが学校において直面する問題を事例として取り上げ、形式的平等・実質的平等/平等(equality)・「公正さ」(equity)、「合理的配慮」の観点から検討を加え、具体的な対応を考える。事例ごとに受講生をグループ分けし、順次発表及び討論をしていく形態をとる。	対面
OATAB06	生涯学習論	1	2.0	1・2	秋AB	金3,4	上田 孝典	社会教育・生涯学習に関する最新動向について学ぶことで、学齢期だけでなく人生を通じた教育や学習の意義と役割について理解を深める。具体的には、社会教育法の改正、地方自治体における社会教育・生涯学習行政の改編、学校と家庭・地域の連携をめぐる政策動向、ボランティアや市民活動などの市民セクターによる住民自治や地域づくり実践、社会教育施設や職員の実状などについて理解を深める。また、UNESCOをはじめとする諸外国の生涯学習や途上国におけるノンフォーマル教育の実践的展開を踏まえながら、SDGsをめぐる将来展望についても考察する。	教室：人間系学系棟 A425 対面
OATAB07	道徳と人権	1	2.0	1・2	春C	集中	田中 マリア	道徳教育と人権教育に関する基本的な知識理解を深めながら、国際社会における日本の価値教育の在り方について、新しい地平を拓いていこうとする態度と技能を獲得することを目指す。具体的には、道徳教育の現代的諸課題について、とりわけ人権教育と関係するテーマに関して、講義、討議、アクティビティ、グループワークなど多様なアプローチ方法を使って学習しながら、今日、国際社会のなかで求められる日本の価値教育のあるべき姿について考える。	小学校専修免許対応は R2年度以降の入学生の み。 西暦奇数年度開講。
OATAB11	学校の社会学	1	2.0	1・2	春AB	木3,4	太田 知彩	社会的カテゴリーの視点(階層、エスニシティ、ジェンダーなど)から国内外の教育政策・実践の可能性と課題について考察し、公正でインクルーシブな学校教育のあり方について議論を深めることを目的とする。具体的には、社会的包摂・排除、マジョリティ・マイノリティ、インターセクショナリティ、差別と共生、統合と包摂、居場所、特権、当事者主権、多文化教育などのキーワードを掘り下げながら、マイノリティの視点から学校教育を問い直す。毎回、学生が文献に基づく報告をし、全員で討論する。	対面
OATAB12	学校安全と危機管理	2	2.0	1・2	夏季休業 中	集中	堀井 啓幸	学校における安全・危機管理の基本的事項や原理・原則を理解するとともに、子どもを取り巻く今日的な状況を踏まえた学校安全と危機管理の実践の在り方について考察することができることを目標とする。具体的には、今日、学校や教師が多様に求められている学校安全と危機管理について、その背景やリスク・マネジメント、クライシス・マネジメントの基本的事項を理解する。その上で、事例検討を通して学校安全と危機管理の在り方を受講生とともに考察したい。	小学校専修免許対応は R2年度以降の入学生の み。 西暦奇数年度開講。
OATAB13	学校経営事例研究	1	2.0	1・2				「学校、学級の実態と課題はどうなっているのか」「日本の教育は諸外国に比べてどのような長所があり課題があるのか」「最新の教育理論(社会情動的コンピテンス、エージェンシー、ウエルビーイング)と制度運営原理(公正)はどのようになっているのか」これらについて学ぶために、この授業では、教育政策、学校経営、学級経営、授業実践、カリキュラム開発の事例を検討する。国際的な視野を高めて、教育行政、教育経営、教師の専門性、学校と学級のマネジメント、カリキュラムの理論と変革に関する知識と考察力を習得する。学校現場の実態を検討するとともに、学校研究の方法についても随時言及する。	小学校専修免許対応は R2年度以降の入学生の み。 2025年度開講せず。
OATAB14	学習指導と授業	1	2.0	1・2	春AB	木1,2	樋口 直宏	授業中の教師や児童・生徒の行動や思考を観察、分析することによって、すぐれた授業および指導方法の特徴について考察することを目的とする。これらを通して、授業を科学的に把握するための基礎的能力を育成したい。 本科目では、授業を構成する諸要素について、先行研究を参考にしながらその概念を検討する。また、授業分析の歴史をはじめ、今日における授業分析法、刺激回想法、参与観察法等の諸方法を習得する。必要に応じて、小・中・高等学校等に赴いて観察や記録を行う機会を設けるとともに、これまでのVTRや授業記録も活用する。	小学校専修免許対応は R2年度以降の入学生の み。 対面

OATAB16	学校臨床心理	1	2.0	1・2						主に児童期後半から青年期にかけて好発する心理・社会的不適応の諸問題に関し、学校という場における臨床心理学的な対応の仕方を、内外の文献の精読を通して、学習する。具体的には、不登校、いじめ、非行、学校ストレス、抑うつ、不安障害などの不適応と、それらに対する心理教育プログラム等について学ぶ。	小学校専修免許対応はR2年度以降の入学生のみのみ。 西暦偶数年度開講。
OATAB17	心理教育的アセスメント	1	2.0	1・2						心理教育的援助におけるアセスメントでは、「理解する、対策を立てる、対処する」というプロセスをくりかえしながら、よりよい援助の方向性をたえず模索していく過程が重要な位置を占める。この授業では、面接、主だった心理テスト等を通して、対象者自身および対象者と面接者の関係、さらには対象者の関わる環境を視野に入れたアセスメントの方法について理論的に検討する。前半では、心理教育的アセスメントとは何かの概要を講義する。その後、主だった心理テスト(知能テスト、性格テストを中心に)を通してのアセスメントの方法、及び報告書作成とその際の注意事項を講義し、議論を通して学習する。その後、面接を通してのアセスメントの方法を学ぶ。実際に視聴覚教材を用いて、あるカウンセリング面接のクライアントの変化をアセスメントする。	小学校専修免許対応はR2年度以降の入学生のみのみ。 西暦偶数年度開講。
OATAB18	スクールカウンセリング論	1	2.0	1・2	夏季休業中	集中	正保 春彦			1) 学校における「スクールカウンセリング」の講義・演習実習のため、その理論と技術に関する講義を行い、事例検討を通して、技術と知識を学習、習得する。 2) 「スクールカウンセリング」とは何か 「従来、学校教育において行われてきた教員による教育相談、平成7年度から導入された専門家が行うスクールカウンセリング、その他さまざまな問題や悩みを抱える児童生徒、教師、保護者などへの学校(教育)における援助、さらには心の教育の一環として行われる児童生徒のメンタルヘルスに関わるさまざまな支援と教育、予防のための教育を広く包括するもの」と考える。	小学校専修免許対応はR2年度以降の入学生のみのみ。 西暦奇数年度開講。
OATAB19	教師の職能発達論	1	2.0	1・2	秋AB	月3,4	朝倉 雅史			教師の成長・発達に関する理論と実践を理解するため、これまでの研究蓄積ならびに最新の研究動向を整理・検討していく。主に教師の行動・認識・社会関係が教師の多様な職務との関係の中で、どのように変容するのかを考察する。これらを踏まえて、教師の専門的・自律的な職能発達を支える条件を検討し、教師を取り巻く研修環境の改善方策をディスカッションしたい。	小学校専修免許対応はR2年度以降の入学生のみのみ。 対面
OATAB20	教育政策と学校改革	1	2.0	1・2	秋AB	月5,6	古田 雄一			この授業では、現代の教育政策の動向や理論について理解を深め、それらを踏まえた学校改革の課題や展望について考察することを目標とする。具体的には、近年の国内(および必要に応じて諸外国)の教育政策動向を取り上げ、それらの基本的理解を図るとともに、関連する理論や研究動向等を紹介し、教育政策や学校改革を捉え、分析する視点を学ぶ。そしてこれらを基盤に、これからの学校のあり方や課題について教育政策との関係で考察し、学校改革の展望について議論を深めていく。	小学校専修免許対応はR2年度以降の入学生のみのみ。 対面
OATAB21	学級のカリキュラムと学習	1	2.0	1・2	秋AB	木3,4	田中 怜			本講義では、学級というシステムを基本的な活動単位とする学校教育をカリキュラム論の視点から多角的にとらえなおすことを目的としている。特に、社会問題が学校の教育内容として変換される「教育化」の力学について、批判的・構成的に捉えることを主眼にしている。その際には、意図的・計画的に仕組まれた教育内容の構想としての「教育課程」と、子どもが実際に学びとった学習経験総体としての「カリキュラム」との関係性と差異が中心的な焦点となる。したがって本講義では受講者が教育課程とカリキュラムの異同を理解することができ、またカリキュラム論の視点から学級や学校について、多視点的に解釈することができることを目指す。	小学校専修免許対応はR2年度以降の入学生のみのみ。
OATAB22	地域学校協働論	1	2.0	1・2	秋AB	木3,4	丹間 康仁			学校組織と地域社会の原理的な構造と現代的な変化を理解しながら、持続可能な学校づくりと地域づくりを支える協働の理論と実践についての基本的な視点を獲得する。少子高齢型人口減少社会における地域と学校の関係として、学校運営協議会の仕組みや地域学校協働活動の取り組みを分析しながら、学校内外や学校間をつなぐ教育システムのあり方を展望する。	小学校専修免許対応はR2年度以降の入学生のみのみ。

専門基礎科目(学校教育・英語教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAH01	英語教育研究方法論		1	2.0	1・2			英語教育研究におけるデータの収集や解析などの方法論について理解を深めることを目的とし、統計の基礎知識から様々な量的分析の方法を学び、統計ソフトによって実践できることを目指す。具体的には、記述統計及び推測統計の基礎知識や、相関分析、t検定、分散分析、因子分析といった外国語教育研究で広く用いられている統計手法について学ぶ。さらに、統計フリーソフトRについても扱い、基礎的な統計手法や応用的な使用方法までをRで行うことができるようにする。	西暦偶数年度開講。 対面 状況によりオンライン(同時双方向型)に変更の可能性あり。統計分析やデータ解析に関心があれば、他分野の学生の受講も受け入れる。

OATAH02	英語教育学習論	1	2.0	1・2					第二言語の習得や処理に関する書籍や文献を講読し、第二言語習得の特徴やその指導法について理解・議論する。具体的には、構文学習や用法基盤モデルといった近年着目されている言語習得理論を中心に様々な研究成果を概観し、指導への示唆を理解する。また、そのような先行研究によって得られた知見をもとに国内の小学校、中学校、高等学校における英語教育の実践について理論的・批判的に捉え、英語教育の理論と実践について自身の考えを深めることを目指す。	西暦偶数年度開講。 対面
OATAH03	英語教育内容論	1	2.0	1・2	春AB	木5,6	名畑目 真吾		第二言語理解や処理における特定の技能や要因に関する書籍・文献を講読し、第二言語理解や処理、その指導法について理解・議論する。具体的には、リーディングであればその認知処理や動機づけ、指導とカリキュラム、評価方法などについて扱う。また、そのような先行研究によって得られた知見をもとに国内の小学校、中学校、高等学校における英語教育の実践について理論的・批判的に捉え、英語教育における特定の技能や要因に関する自身の考えを深めることを目指す。	西暦奇数年度開講。 対面
OATAH04	英語教育実践論	1	2.0	1・2	秋AB	金3,4	名畑目 真吾		英語教育の実践的な知識を学び、多様な指導環境や児童・生徒の学びの特徴について理解する。具体的には、国内の小学校、中学校、高等学校における英語教育の目標や教材について理解するとともに、各校種の授業見学あるいは映像視聴を行い、より良い英語授業の実践について理論的・批判的に自身の考えを深める。そして、模擬授業の設計、実施、振り返りを通して、各校種の英語の授業づくりと実践に必要な知識と技術を身に付けることを目指す。なお、学校現場への授業見学を行う場合は開講曜時限によらないので留意すること。	西暦奇数年度開講。 対面

専門基礎科目(学校教育・芸術科教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAJ01	芸術科教育特講a	1	1.0	1・2				芸術教育に関する基本文献を講読して今日的な課題を概観し、その解決のためのさまざまなアプローチを理解することができること、特に、芸術教育に関する学会誌に掲載された論文をレビューし、その方法論の特徴、成果と課題を明確化できることを目標とする。そのために、『美術教育学』等の学会誌論文の中から、芸術教育におけるディシプリンや今日的課題、〈新しい能力〉概念と芸術教育、芸術教育における能力観、芸術教育におけるイメージリテラシー、学習科学と芸術教育等に関わるテーマを選び、その目的、方法、結果を要約し、そこから発展する問いを提案し議論する。また、各自がレビューした論文や授業で取り扱った論文を総括して考察する。	西暦偶数年度開講。 R7年度は開講せず。
OATAJ02	芸術科教育特講b	1	1.0	1・2				芸術教育に関する基本文献を講読して今日的な課題を概観し、その解決のためのさまざまなアプローチを理解することができること、特に、芸術教育に関する学会誌に掲載された論文をレビューし、その方法論の特徴、成果と課題を明確化できることを目標とする。そのために、『美術教育学』等の学会誌論文の中から、描画表現における発達、表現・鑑賞学習への動機づけ、芸術学習における転移、芸術学習におけるメタ認知、鑑賞スキルとその発達等に関わるテーマを選び、その目的、方法、結果を要約し、そこから発展する問いを提案し議論する。また、各自がレビューした論文や授業で取り扱った論文を総括して考察する。	西暦偶数年度開講。 R7年度は開講せず。
OATAJ03	芸術科教育実践論演習a	2	1.0	1・2	春AB	水3	石崎 和宏	近年の教育実践研究における質的研究の方法に注目し、その基本的概念と手順について理解を深め、芸術科教育での課題に対する各自の問題意識と対応させた方法習得することを目標とする。そのために、芸術科教育実践における今日的な課題を解決するための質的アプローチの基本的概念について、仮説と理論の関係、リサーチクエストの設定、分析ワークシートの作成、理論生成のプロセス等の視点から理解し、実践におけるさまざまな問題の背景要因の分析と問題解決のための理論モデル生成の手法について演習する。	西暦奇数年度開講。

OATAJ04	芸術科教育実践論演習b	2	1.0	1・2	秋AB	水3	石崎 和宏	近年の教育実践研究における質的研究の方法に注目し、その基本的概念と手順について理解を深め、芸術科教育での課題に対する各自の問題意識と対応させた方法を習得することを目標とする。そのために、芸術科教育実践における今日的な課題を解決するための質的アプローチの基本的概念について、協調学習における理解深化プロセス、パフォーマンス評価による学びの可視化、対話型鑑賞における鑑賞者同士の学習支援等の視点から理解し、実践におけるさまざまな問題の背景要因の分析と問題解決のための理論モデル生成の手法について演習する。	西暦奇数年度開講。
OATAJ05	芸術鑑賞論a-1	1	1.0	1・2				芸術鑑賞の教育研究に関わる先行文献をレビューし、それらで検討された具体的な研究方法と得られた知見について考察し、鑑賞教育研究の多面的な方法を理解することを目標とする。そのために、芸術鑑賞に関わる各自のリサーチアクションに基づいた独自の調査方法をパイロットスタディとして開発し、その分析結果と考察を発表し、レポート(論文形式)でまとめる。	西暦偶数年度開講。 R7年度は開講せず。
OATAJ06	芸術鑑賞論a-2	1	1.0	1・2				人々は芸術作品をどのように理解するのかという問いにかかわる先行研究の検討や事例分析を通して、芸術鑑賞に関する方略的な知見を習得し、それらの知見を活用した芸術教育での学習方策を開発できることを目標とする。そのために、芸術作品の鑑賞プロセスでの思考や概念の変化を事例ごとにマッピングし、パーソンズ(Parsons, M.)の発達理論と対比しつつ、芸術鑑賞におけるスキルやメタ認知のとらえ方について、鑑賞文からのスキル分析や鑑賞における思考の構造化の視点から検討し、芸術教育における実践への具体化を考察する。	西暦偶数年度開講。 R7年度は開講せず。
OATAJ07	芸術鑑賞論b-1	1	1.0	1・2	春AB	火3	石崎 和宏	人々は芸術品からの個人的な意味づくりをどのようにできるのか。この問いにかかわる鑑賞の機能や課題について考察する。対話型鑑賞の手法を通して、具体的な事例の分析を試みる。芸術鑑賞における「視覚」と「言葉」がどのように作用するのかという問いに関わる事例演習を通して、鑑賞の個人的な意味づくりについての議論を深めていく。	西暦奇数年度開講。
OATAJ08	芸術鑑賞論b-2	1	1.0	1・2	秋AB	火3	石崎 和宏	人々は芸術をどのように理解するのか、その問いにかかわる研究成果を検討しつつ、美術教育における鑑賞教育の方法論を考察する。特に解釈や判断等の思考過程に注目し、その過程で葛藤やジレンマ、意味の生成、論争などを促す方法について検討する。さらに美術的な思考の深化を促すプランを立案・実践し、議論する。	西暦奇数年度開講。

専門基礎科目(学校教育・保健体育教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAK01	保健体育教育内容論	1	3.0	1・2	春AB秋AB 春C秋C	金2 集中	宮崎 明世	保健体育科の教材について、教材開発と学習指導の実践及び研究に関する基礎知識を身につける。各種運動領域の教材、学習及び学習指導に関する開発・実践及び研究に関する知識を踏まえて、教材及び単元計画の開発、学習過程及び指導方法の開発、開発した教材、単元計画、指導方法を検証するための研究を計画できるようにすることを目標とする。具体的には、保健体育科の教材について基本的理論を学ぶ。各種運動・スポーツ種目のトレーニングと指導法に関する知識を踏まえて、教材を開発する。	
OATAK02	保健体育教育実践論演習I	2	1.0	1	春季休業中	集中	宮崎 明世, 征矢 範子	教育実習において実習生が直面する問題を理解し、問題解決の助力と指導計画の指導を通して自らの授業計画、運営能力を身につけることを目標とする。具体的には、筑波大学附属小学校・中学校・高校と連携し、保健体育科の教育実習生の事前指導を観察、補助することを通して、保健体育科の授業作り、教材作り、学習指導、評価に関する知識を学校現場でどのように活用し実践するのか、保健体育科の教育実習生が直面する課題とその解決方法を理解し、学習指導並びに授業改善に必要な知識と実践力を身につける。	3月下旬に講義、演習 対面
OATAK03	保健体育教育実践論演習II	2	1.0	2	春AB	集中	宮崎 明世	教育実習の準備段階で実習生が直面する問題点を理解し、指導案作成の指導を通して自らの授業計画、運営能力を身につけることを目標とする。具体的には、筑波大学附属小学校・中学校・高校と連携し、保健体育科の教育実習生が教育実習前に行う観察実習および指導案作成を観察、補助することを通して、保健体育科の授業作り、教材作り、学習指導、評価に関する知識を学校現場でどのように活用し実践するのか、保健体育科の教育実習生が直面する課題とその解決方法を理解し、学習指導並びに授業改善に必要な知識と実践力を身につける。	対面

OATAK04	保健体育教育実践論演習III	2	1.0	2	春AB	随時	宮崎 明世	教育の現場で実習生が直面する問題点を理解し、指導案作成の指導を通じて自らの授業計画、運営能力を身につける。実習校の指導教員の実習生への指導を、自らの授業力の向上に役立てることを目標とする。具体的には、筑波大学附属小学校・中学校・高校と連携し、保健体育科の教育実習生の指導を観察、補助することを通じて、保健体育科の授業作り、教材作り、学習指導、評価に関する知識を学校現場でどのように活用し実践するのか、保健体育科の教育実習生が直面する課題とその解決方法を理解し、学習指導並びに授業改善に必要な知識と実践力を身につける。
OATAK05	保健体育カリキュラム論	1	1.0	1・2	春AB	木2	宮崎 明世	現在の学校に対する社会的な要請や、児童生徒のニーズを理解する。その上で課題やニーズに対応した、小・中・高校段階のカリキュラムを設定できる力を身につける。また、体育の目標と内容について学び、カリキュラムモデルを理解することを目標とする。具体的には、教科としての体育の意義と学習すべき内容を理解し、発達段階に応じたカリキュラムを考える。学校段階に応じたカリキュラムの考え方を学び、さまざまなカリキュラムモデルを理解し活用できるようになる。
OATAK06	保健体育授業づくり論	1	1.0	1・2	秋AB	木4	宮崎 明世	より良い体育授業を行うための、授業計画、教材を活かす学習過程の設計、授業中の肯定的雰囲気と運動学習の勢いをつくり出すマネジメントと教授行動などについて考えることができること、実現可能な指導計画、教材の考え方を身につけ、良い保健体育授業が行えるようになることを目標とする。具体的には、保健体育の授業づくりの基礎をふりかえり、さらに実践的な考えの下に年間計画、単元計画、指導計画づくりを検討する。今、この時代に求められる保健体育授業、学校のあり方について考える。より良い体育授業を行うための、授業計画、教材を活かす学習過程の設計、授業中の肯定的雰囲気と運動学習の勢いをつくり出すマネジメントと教授行動について検討する。

専門基礎科目(国語教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAD01	国語科教育学a	1	1.0	1・2				国語科の目標、内容、方法に関する研究水準に基づいて、今日的な課題について討議を行い、解決策を検討する。具体的には、国語学習指導の意義、国語科の目標と内容、学習者の把握と指導計画作成の観点、話すこと・聞くことに関する授業づくりの方法、書くことに関する授業づくりの方法、読むことに関する授業づくりの方法、伝統的な言語文化と国語に関する事項の内容、国語科における評価の方法、国語科をとりまく課題について討議する。	西暦偶数年度開講。 対面
OATAD02	国語科教育学b	1	1.0	1・2				PISA、全国学力・学習状況調査などの評価方法、また、アクティブ・ラーニングなど、現在の国語教育を取り巻く問題を取り上げて関連資料に基づき討議を行い、対応策を検討する。具体的には、PISA2000のもたらした課題、全国学力・学習状況調査、高等学校・大学の入試問題、読解力向上プログラムの背景、「新しい学力観」の帰趨、学校教育における言語活動の位置づけをめぐる議論、アクティブ・ラーニングの諸問題、FD活動の課題などについて討議する。	西暦偶数年度開講。 対面
OATAD03	国語科教育史研究a	1	1.0	1・2	春AB	火5	長田 友紀	戦前の国語科の成立過程や歴史的経緯をみることで、国語科が本質的に抱える諸問題を理解して、今後のあり方について討議する。具体的には国語科教科書の成立過程や、読むこと・書くこと・話すこと・聞くこと・言語事項の代表的実践の歴史的変遷について様々な資料や調査・先行研究をもとにたどりながら検討する。	西暦奇数年度開講。 対面
OATAD04	国語科教育史研究b	1	1.0	1・2	秋AB	火5	長田 友紀	戦後の国語教育の理論や実践を歴史的にみることで、国語科が本質的に抱える諸問題を理解しつ、今後のあり方について討議する。具体的には国語科教科書や、読むこと・書くこと・話すこと・聞くこと・言語事項の代表的実践について様々な資料や、調査をもとにたどりながら検討する。	西暦奇数年度開講。 対面
OATAD05	国語科教育実践論研究a	2	2.0	1・2	春ABC 夏季休業中	水6 集中	勝田 光	本科目は、国語科授業研究の目的と方法、歴史、データの分析方法について学んだ後、調査計画や実験授業を立案し、模擬授業も行う。附属学校で実施する実験授業と、その内容を分析して報告書『国語科授業分析演習』にまとめる『国語科教育実践論研究b』(OATAD06)の事前学修に位置づく科目である。	西暦奇数年度開講。 対面
OATAD06	国語科教育実践論研究b	2	1.0	1・2	秋AB	水6	勝田 光	院生が立案した研究授業を実際の教室で実施する。実施後は、授業中の学習者のデータを記録・分析して報告書にまとめる。	実地指導を含む。 西暦奇数年度開講。 対面

OATAD07	表現教育論a	1	1.0	1・2					国語教科書における表現領域の教材を確認したうえで、表現トレーニングを受講することで各自の表現のスキルや能力を向上させる。具体的には、言語表現論の概説、国語教育における言語表現、教科書に見る言語表現(話すこと・聞くこと)、教科書に見る言語表現(書くこと)、言語表現トレーニング(話すことの基礎)、言語表現トレーニング(話すことの実用)、言語表現トレーニング(書くことの基礎)、言語表現トレーニング(書くことの実用)、言語表現の振り返りの方法などについて討議する。	実地指導を含む。 西暦偶数年度開講。 対面 教室：人間B427
OATAD08	表現教育論b	1	1.0	1・2					日本における表現教育の主要な事例を歴史的に振り返った上で、特に大村はま実践における事例を討議する。具体的には、言語表現に関する実践事例(戦前)、言語表現に関する実践事例(昭和)、言語表現に関する実践事例(平成)、大村はまにみる表現教育の方法(スピーチ)、大村はまにみる表現教育の方法(インタビュー)、大村はまにみる表現教育の方法(話し合い)、大村はまにみる表現教育の方法(説明的文章)、大村はまにみる表現教育の方法(文学的文章)、大村はまにみる表現教育の方法(総合的な単元)について討議する。	西暦偶数年度開講。 対面 教室：人間B427
OATAD09	文学教育論a	1	1.0	1・2	春AB	3月	石塚 修		国語科教育、とくに中等教育における文学に関する教育についての基礎的な知見を身につけ、中等教育の教員として求められる資質を高める。具体的には、文学とはなにか(総論)、文学とはなにか(問題点)、文学を教育することの意義(総論)、文学を教育することの意義(問題点)、中学校における文学教育(総論)、中学校における文学教育(問題展)、高等学校における文学教育(総論)、高等学校における文学教育(問題展)などについて討議する。	実地指導を含む。 西暦奇数年度開講。 対面
OATAD10	文学教育論b	1	1.0	1・2	秋AB	3月	石塚 修		国語科教育、とくに中等教育における文学に関する教育についての応用的な知見を身につけ、中等教育の教員として求められる資質を高める。具体的には、文学とはなにか(総論)、文学とはなにか(問題点)、文学を教育することの意義(総論)、文学を教育することの意義(問題点)、中学校における文学教育(総論)、中学校における文学教育(問題展)、高等学校における文学教育(総論)、高等学校における文学教育(問題展)などについて応用的な視点から討議する。	実地指導を含む。 西暦奇数年度開講。 対面
OATAD11	古典教育論a	1	1.0	1・2					国語科教育、とくに中等教育における古典に関する教育についての基礎的な知見を身につけ、中等教育の教員として求められる資質を高める。具体的には古典とはなにか(概説)、古典とはなにか(問題点)、古典を教育することの意義(古文)、古典を教育することの意義(漢文)、中学校における古典教育(古文)、中学校における古典教育(漢文)、高等学校における古典教育(古文)、高等学校における古典教育(漢文)などについて討議する。	実地指導を含む。 西暦偶数年度開講。 対面 教室：人社A202
OATAD12	古典教育論b	1	1.0	1・2					国語教育における古典分野について教員としてふさわしい指導方法・指導内容を身につける。具体的には、古典とはなにか(概説)、古典とはなにか(問題点)、古典を教育することの意義(古文)、古典を教育することの意義(漢文)、中学校における古典教育(古文)、中学校における古典教育(漢文)、高等学校における古典教育(古文)、高等学校における古典教育(漢文)について応用的な視点から討議する。それらをもとに古典分野についてふさわしい教員像について考察する。	実地指導を含む。 西暦偶数年度開講。 対面
OATAD13	国語科リテラシー教育論a	1	1.0	1・2	春AB	火2	島田 康行		国語教科書の教材を対象として、リテラシー教育の考え方について実践的に学ぶ。具体的には国語教育におけるリテラシーの考え方、学習指導要領にみるリテラシー教育の思想、国語教科書にみるリテラシー教育の可能性、「話すこと・聞くこと」の教材研究(1)中学校教科書から、「話すこと・聞くこと」の教材研究(2)高校教科書から、「書くこと」の教材研究(1)中学校教科書から、「読むこと」の教材研究(1)中学校教科書から、「読むこと」の教材研究(2)高校教科書から、リテラシー教育の考え方に立つ国語教育の在り方などについて概観する。	対面

OATAD14	国語科リテラシー教育論b	1	1.0	1・2	秋AB	火2	島田 康行	教材開発の視点と方法を学び、国語科各領域のリテラシー教材開発を実践的に学ぶ。具体的には、リテラシー教育における教材の機能と役割、教材開発の観点と方法、「話すこと・聞くこと」の教材開発(1)プレゼンテーション、「話すこと・聞くこと」の教材開発(2)メディアの活用、「書くこと」の教材開発(1)説明と描写における修辞、「書くこと」の教材開発(2)論じるということ、「読むこと」の教材開発(1)近現代の文学的文章、「読むこと」の教材開発(2)古文・漢文、「読むこと」の教材開発(3)「実用的な文章」、総括 -リテラシー教育の考え方に立つ教材開発のこれららについて討議する。	対面
OATAD15	国語教育特講	1	1.0	1・2	秋B	集中	長田 友紀	国語教育の理論および実践について深める。読むこと、書くこと・話すこと・聞くこと、伝統的な言語文化、言語事項などの理論および実践を具体的な取り上げ、教室の調査研究・歴史的研究・他国との比較研究といった手法にもとづき考察する。理論や実践だけでなく、研究方法についても学ぶ。	詳細後日周知。対面
OATAD16	国語科研究法	1	3.0	1・2	春AB秋AB	応談	勝田 光,石塚 修	国語科の各領域に関する実践研究を収集し、今日的な課題を把握すると同時に、現時点での達成水準を理解する。また筑波大学所蔵の現職派遣生の実践レポートを分析対象として、討議をとおしてそれらを分析し評価するとともに自ら提案するための方法を獲得する。その上で実際に実践レポートを作成する。具体的には、国語科の実践研究の水準を把握する意義とその方法、実践研究のレビューの収集、レビュー記述の観点、話すこと・聞くことの実践に関するレビューの分析、などについて討議する。	全てオンライン 14条対応
OATAD17	国語科研究法演習	2	3.0	1・2	春AB秋AB	応談	長田 友紀,稀代 麻也子	国語科における各領域(読むこと、書くこと、話すこと・聞くこと、日本語の特質、伝統的な言語文化(古文、漢文)でなされてきた代表的な研究を概観した上で、各自でそれぞれの領域の研究を調査し、討議する。また国語科教育における代表的研究方法を理解した上で、各自でそれぞれの手法から一つを選び調査し演習発表を行う。その際、研究方法だけでなく、各領域の指導内容にも十分に注意を払い検討を進める。これらをとおして国語科教育の研究法を向上させる。	全てオンライン 14条対応
OATAD18	社会日本語論1a	1	1.0	1・2				児童作文の調査とコーパス構築、およびコーパスを利用した言語研究の事例を通して、語彙や文法などの言語能力の発達を分析するための技術・知識を学習する。また、言語使用者の社会的属性や、話し言葉と書き言葉、文種の違いなどによって生じる言語の位相差について考える。	西暦偶数年度開講。 オンライン(同時双方 向型)
OATAD19	社会日本語論1b	1	1.0	1・2				大規模コーパスと検索システム、およびコーパスを利用した言語研究の事例を通して、実社会における言語の使用実態を分析するための技術・知識を学習する。また、言語使用者の社会的属性や、テキストのジャンル、メディア、伝達目的の違いなどによって生じる言語の位相差について考える。	西暦偶数年度開講。 オンライン(同時双方 向型)
OATAD20	社会日本語論11a	1	1.0	1・2	春AB	木4	今田 水穂	SNSなどのWebテキストの収集とコーパス構築、およびコーパスを利用した言語研究の事例を通して、打ち言葉における語彙・表記・文法などの言語事象を分析するための技術・知識を学習する。また、情報化社会における言語コミュニケーションの機能や、言語の変化について考える。	西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方 向型)
OATAD21	社会日本語論11b	1	1.0	1・2	秋AB	応談	今田 水穂	受講者の興味・関心に即したテーマを取り上げ、研究用データの構築および分析をすることを通じて、実社会における言語使用の実態や学習者の言語能力を分析するための技術・知識を学習する。また、研究計画を立案し、客観的なデータに基づき解決するための手順と方法を習得する。	西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方 向型)
OATAD22	古典日本語論1a	1	1.0	1・2	春AB	応談	橋本 修,菊池 そのみ	各種資料を読みながら日本語史をたどり、古典日本語の実態とその変遷について学ぶ。上代・中古の日本語を中心に資料の扱い方、調査・研究の方法、分析・考察の観点、現代日本語との比較等を取り上げ、多角的に検討する。	西暦奇数年度開講。 対面
OATAD23	古典日本語論1b	1	1.0	1・2				各種資料を読みながら日本語史をたどり、古典日本語の実態とその変遷について学ぶ。中世以降日本語を中心に資料の扱い方、調査・研究の方法、分析・考察の観点、現代日本語との比較等を取り上げ、多角的に検討する。	西暦偶数年度開講。 対面
OATAD24	古典日本語論11a	1	1.0	1・2	春AB	金3	橋本 修	平安時代前期における日本語に関する諸事項を確認、検討する。併せて日本語歴史コーパス(GHJ)の利用に関する利点・問題点を検討する。	オンライン(同時双方 向型)
OATAD25	古典日本語論11b	2	1.0	1・2	秋AB	金3	橋本 修	古今和歌集を中心に、平安時代語および平安時代語資料の検討を行う。また、日本語を通史で見た場合の平安時代語の位置づけについても考える。	オンライン(同時双方 向型)

OATAD26	現代日本語論1a	1	1.0	1・2					日本語研究における活用および関連諸現象の位置付け・分析方法について、これまでの研究における取り扱いを整理することによって主要な論点と立場を洗い出す。また、自ら形態現象を分析する際のデータの収集・分析方法についても、実際の作業を通して検討する。具体的には、形態論と文法・音韻論、日本語の活用研究史、活用(1)：活用と述部複合体、活用(2)：語の範囲と形態論的カテゴリー、活用(3)：付加と対立、活用(4)：連用形の分布、活用(5)：未然形の位置付け、同形性と補充、日本語の諸方言の活用などについて討議する。	西暦偶数年度開講。 対面
OATAD27	現代日本語論1b	1	1.0	1・2					日本語の音声・音韻の体系及び特徴について、拍体系・特殊拍の特性・各行の音韻の特性を中心に扱う。日本語の音韻について通時的変化も含めたいうで理解を深め、種々の音韻現象に対する学術的な考察および国語教育とのかかわりについて討議する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OATAD28	現代日本語論11a	1	1.0	1・2	春AB	金4	田川 拓海		日本語研究における語構成の位置付け・分析方法について、これまでの研究における取り扱いを整理する。また、自ら形態現象・語彙を分析する際のデータの収集・分析方法についても、コーパス等を用いた実際の作業を通して学ぶ。具体的には、形態論と文法・音韻論、日本語に特徴的な語構成、語構成(1)：複合動詞、語構成(2)：動詞由来複合語、語構成(3)：複合形容詞、語構成(4)：接辞と品詞、語構成(5)：語種と外来語研究、語構成(6)：外来語動名詞の分布と分類、コーパスを用いた形態論・語彙研究、などについて討議する。	西暦奇数年度開講。 対面
OATAD29	現代日本語論11b	1	1.0	1・2	秋AB	金4	那須 昭夫		国語教育の重要な要素のひとつである漢字・漢語の特性について音韻論の観点から考察する。漢字の音訓の成り立ちから現代日本語での用法に至るまで、通時的変化も含めて理解を深め、種々の音韻現象に対する学術的な考察および国語教育とのかかわりについて討議する。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OATAD30	日本文学研究1a	1	1.0	1・2					『源氏物語』注釈史が、諸本の問題に不可分にかかわることを具体的に、異文発生がケアレスにではなく、必然として生じた問題についてあきらかにすることをこころみる。異文が思想的な問題を考察する糸口にもなり得ることについて解説する。具体的には『源氏物語』注釈史概説(古注)、『河海抄』、『源氏物語』注釈史概説(旧注)、『花鳥余情』、『源氏物語』注釈史概説(旧注)、連歌師、中世における『源氏物語』享受、能、『源氏物語』の諸本などについて討議する。	場所は中央図書館古典 籍室 西暦偶数年度開講。 対面
OATAD31	日本文学研究1b	2	1.0	1・2					『源氏物語』注釈史のなかでも、近代以降、その意味、『源氏物語』理解のための必要性、が見えにくくなっている注釈書を中心にとりあげて、それらがどのような時空のなかで生きていたのか考え、わたしたしがうしなってしまったものの所在をあきらかにすることをこころみる。具体的には中世の『源氏物語』注釈、『河海抄』、中世の『源氏物語』注釈、『仙源抄』、『源氏物語』注釈史と字書、『節用集』、近世の『源氏物語』、契沖、賀茂真淵、注釈書の諸本についてなどについて討議する。	場所は中央図書館古典 籍室 西暦偶数年度開講。 対面
OATAD32	日本文学研究11a	1	1.0	1・2	春AB	木5	吉森 佳奈子		虚構の物語作品である『源氏物語』が、注釈史のある時期に歴史記述によって注されてきた状況を見つめる。あわせて、『源氏物語』注釈書にのみ伝承される歴史記述のゆくえを見、官撰国史断絶後、歴史はどのように記されたかという問題についても考える。具体的には年代記類概説、官撰国史、類書と歴史記述、『二中歴』、『源氏物語』注釈書所引の歴史記述、『帝王編年記』、『源氏物語』注釈書所引の歴史記述、『神皇正統記』、などについて討議する。	場所は中央図書館古典 籍室 西暦奇数年度開講。 対面
OATAD33	日本文学研究11b	2	1.0	1・2	秋AB	木5	吉森 佳奈子		主として近代以降の『源氏物語』研究において、ジャンルが異なることから殆ど注目されることのなかった『三教指帰』注釈書類が『源氏物語』注釈史の伝承と深くかかわることについて具体的に考察する。『源氏物語』が歴史記述によって注された問題を解きあかすことをこころみる。具体的には『源氏物語』注釈史概説、古注、旧注、『源氏物語』注釈と私撰国史、『一代要記』、『源氏物語』注釈と私撰国史、『一代要記』と『大日本史』、『源氏物語』注釈と『帝王編年記』、などについて討議する。	場所は中央図書館古典 籍室 西暦奇数年度開講。 対面
OATAD34	日本文学演習1a	2	1.0	1・2					日本近代文学のうち主に明治期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討議を行う。	西暦偶数年度開講。 対面 教室：人社A205

OATAD35	日本文学演習Ib	2	1.0	1・2					日本近代文学のうち主に大正期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。	西暦偶数年度開講。 対面 教室：人社A205
OATAD36	日本文学演習IIa	2	1.0	1・2	春AB	木6	馬場 美佳		日本現代文学のうち主に昭和期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。	西暦奇数年度開講。 対面
OATAD37	日本文学演習IIb	2	1.0	1・2					日本現代文学のうち主に平成期の文学について学ぶ。対象とする作品について、担当者が語釈・注釈・先行研究の調査を行い、それに基づいて当該作品の文学的価値や諸問題について、全体で討論を行う。	西暦奇数年度開講。 2025年度開講せず。 対面
OATAD38	日本文学表現論a	1	1.0	1・2						2025年度開講せず。
OATAD39	日本文学表現論b	2	1.0	1・2						2025年度開講せず。
OATAD40	中国文学研究a	2	1.0	1・2					『芸文類聚』所収の詩文を読む。	西暦偶数年度開講。 対面 教室：中央図書館セミナー室D
OATAD41	中国文学研究b	2	1.0	1・2					『芸文類聚』所収の南北朝の作品を読む。	西暦偶数年度開講。 対面
OATAD42	中国文学演習a	2	1.0	1・2	春AB	火5	稀代 麻也子		『芸文類聚』所収の作品を読む。	西暦奇数年度開講。 対面
OATAD43	中国文学演習b	2	1.0	1・2	秋AB	火5	稀代 麻也子		『芸文類聚』所収の詩を読む。	西暦奇数年度開講。 対面

専門基礎科目(社会科教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATAE01	社会科教育学特講	4	2.0	1・2	春AB秋AB	火5	唐木 清志、國分 麻里、金 玟辰	社会科の基本的な概念を学ぶとともに、社会科のあるべき姿を理論的に、また各地の教育現場の実地調査を踏まえて探究する。春学期は、社会科の概念を、学校と地域とのかかわりから、地域に関わる論文を通して探究していく。これにより、文献を通じて、社会科の視点より地域を考察する研究方法を習得する。秋学期は、春学期で得た知見を活かし、調査地域を選定して地域調査を行う。地域とかがわって社会科の学習がいかに行われているかを調査し、その調査結果を報告書もしくは論文としてまとめるまでを授業として行う。	
OATAE02	社会科教育学内容論(地理歴史)	1	3.0	1・2	春ABC	金1,2	唐木 清志、國分 麻里、金 玟辰	中学校社会科及び高等学校公民科の理論と方法について、特に、授業づくりと授業評価に必要な資質・能力を身に付けることができる。授業づくりにあたっては、現代の諸課題の教材化と、社会的な見方・考え方の育成に焦点を絞って、授業づくりを実施する。さらに、授業評価では、授業を通して身に付けられる履修者を2・4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、全員の前で、模擬授業を行い、授業評価を行う。	
OATAE03	社会科教育学内容論(公民)	1	3.0	1・2	春ABC	金1,2	唐木 清志、國分 麻里、金 玟辰	中学校社会科及び高等学校公民科の理論と方法について、特に、授業づくりと授業評価に必要な資質・能力を身に付けることができる。授業づくりでは、現代の諸課題の教材化、社会的な見方・考え方の育成に焦点を当てる。また、授業評価では、ルーブリック評価やパフォーマンス評価といった近年注目される評価論を念頭に置く。履修者を2・4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、全員の前で、模擬授業を行い、授業評価を行う。	
OATAE04	社会科教育学実践論(地理歴史)	2	3.0	1・2	秋ABC	金1,2	唐木 清志、國分 麻里、金 玟辰	中学校社会科及び高等学校地理歴史科の授業づくりについて、高度な教育実践力を身に付けることができる。地理では、特に地域調査に重点をおき、地域でのフィールドワークを通じた授業づくりを心掛ける。歴史では、史料批判に重点をおき、多面的・多角的に考えられる資料を考察し、解釈学習を行うことができるような授業づくりを行う。履修者を2・4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、実際に学校現場において実験授業を実施して、その結果を分析する。	

OATAE05	社会科教育学実践論(公民)	2	3.0	1・2	秋ABC	金1,2	唐木 清志、國分 麻里、金 玟辰	中学校社会科及び高等学校公民科の授業づくりについて、高度な教育実践力を身に付けることができる。「社会科教育学内容論(公民)」で習得した授業づくりに関する理論を基に、作成された学習指導案を活用して実際に授業を実施することになる。なお、単に授業を実施するだけでなく、授業後の評価活動にも積極的に関与して、総合的に授業力を高めることに留意する。履修者2~4人から成る4つのグループに分け、各グループで教材研究と単元開発を行う。その上で、実際に学校現場において実験授業を実施して、その結果を分析する。	
OATAE06	地理教育特講I	1	1.0	1・2				中等学校での地理教育についての講義や討論を通して地理教育の本質にせまり、それを理解したうえで地理授業の構想をたて、実践する。Iでは特に地理教育の本質を理解することに重点をおく。具体的には、地理教育課題を文献などから見だし、その課題についての理論的背景を考察していく。そのために、地理教育の論文および著書を検討し、批判することはむろんのこと、関連する教育学分野は専門分野の論文や著書についても必要に応じて検討を加える。	西暦偶数年度開講。
OATAE07	地理教育特講II	1	1.0	1・2				中等学校での地理教育についての講義や討論を通して地理教育の本質にせまり、それを理解したうえで地理授業の構想をたて、実践する。IIではIでの成果を踏まえて、教育実践論文や実践を検討することにより、理論がどのように実践化されるのか、あるいはできるのかを考察する。これにより、地理教育の本質が、授業でどのように実証化できるのかを検証することができる。目標論と内容論、方法論それぞれの理論を統合した授業の構築が可能となる。	西暦偶数年度開講。
OATAE08	地理教育特講III	1	1.0	1・2	春AB秋AB	応談	金 玟辰	これまで教育現場で地理として実践してきたことを学問的に位置付け、論文とすることを学ぶ。自分の実践と関連する地理教育の論文を分析することを通して、社会科教育学ないしは地理教育における、自分の実践を位置付けていく。それにより、自分が今までやっていた実践が、社会科教育学および地理教育の中でどのような意味をもつのかを客観的に評価することができる。こうしたことを通じて、地理教育論文の意味や地理教育論文の意義を考え、実践研究の必要性についての自覚を促していく。	14条対応
OATAE09	地理教育演習I	2	1.0	1・2	春AB	木2	金 玟辰	中等学校での地理教育についての講義や討論を通して地理授業の構想をたて、実践する。Iでは特に地理授業の構想を立てることに重点をおく。具体的には、地理授業の本質、先行研究から見る地理授業の特性、地理授業の基になる理論の概要、地理授業の理論の構築、地理授業の構成といった、地理授業を構想する際に必要となる基礎的・基本的な内容及び方法論について演習を実施する。本講義で習得した内容及び方法論に基づき、地理教育演習IIでは、より具体的に授業実施を目標に置く。	西暦奇数年度開講。
OATAE10	地理教育演習II	2	1.0	1・2	秋AB	木2	金 玟辰	中等学校での地理教育についての講義や討論を通して地理授業の構想をたて、実践する。IIでは特に地理授業を実践することに重点をおく。講義ではまず、中学校地理的分野の授業づくり班と、高等学校地理歴史科地理の授業づくり班の二つにグループ分けする。その上で、それぞれのグループで教材研究を行い、学習指導案を作成する。さらに、それに基づいて模擬授業を実施して、学習指導案の再検討を行う。最終的に、学校教育現場で実験授業を行う。	西暦奇数年度開講。
OATAE11	地理教育演習III	2	1.0	1・2	春AB秋AB	応談	金 玟辰	地理教育実践に関する単元構想を行い、実際に模擬授業或いは実験授業を実施して、授業を振り返って、授業評価を行う。本講義で大切にしたいことは、授業評価である。学習成果をより厳密に評価していくことが、実践報告と実践研究との分かれ目だと考えているため、「地理教育演習II」と比して、本講義では授業評価に力点を置く。実践終了後に、履修者は授業の様子を録画したテープから、発話を文字起こしして、授業中に提出された振り返りシート等とともに、評価の材料とする。パフォーマンス評価やルーブリック評価といった最新の評価技術もここで学ぶことになる。	14条対応
OATAE12	歴史教育特講I	1	1.0	1・2				中等学校での歴史教育に関する基礎を学ぶ。歴史的には、明治時代から現在までの歴史教育史について学ぶ。その上で、1947年からの社会科歴史教育や歴史教育論についての考察を加えていく。具体的には、日本や世界の歴史教育に関する目標や内容、方法について、理論的および実践的に講義や演習などを通して学んでいく。加えて、歴史を学ぶ意味やその必要性についても、世界の歴史学者や歴史教育者の考えを知りながら、自分なりの考えが持てるようになる。	西暦偶数年度開講。

OATAE13	歴史教育特講II	1	1.0	1・2				歴史教育について、多方面より発展的に一層学んでいくものである。具体的には、日本や世界の歴史教育に関する資料や論文を比較しながら読み、それに関する資料も含めて、総合的に考察していく。学生による報告と討論を通じて、歴史教育に関するより深い内容や方法を学ぶものである。授業の目標は次の2点である。(1)日本や世界の歴史教育に関する比較の視点で読むことができる。(2)多面的・多角的に文献を考察しながら報告し討論を通じて、自分の意見を相対化しながら、歴史教育についての理解を深めるのである。	西暦偶数年度開講。
OATAE14	歴史教育特講III	1	1.0	1・2	春AB秋AB	応談	國分 麻里	日本と世界の歴史教育実践の動向を探り、いくつかの授業実践記録を丁寧に読んでいく。具体的には、日本の1945年以後の「初期社会科」と言われる時代の実践と、アメリカやイギリス、ドイツの歴史授業実践を検討していく。そうした実践に、今まで自分自身が実践してきた授業を重ね合わせていく。こうした作業をすることで、これまでの自分の歴史授業実践の位置づけを知ることができるとともに、新しい考え方や内容、方法を吸収することができる。こうした作業を繰り返し行ない、歴史教育実践の今後について深く探究する。	14条対応
OATAE15	歴史教育演習I	2	1.0	1・2	春AB	木3	國分 麻里	歴史教育演習Iでは、比較研究を行う国や地域の歴史、教育に関する論文を分析・検討する。具体的には、比較研究を行う国や地域として、アメリカやイギリス、ドイツを想定している。こうした国々の歴史や教育に関する論文を扱うことで、日本の歴史教育との比較研究をより深く行うことができる。これらの国や地域の論文を読み、分析・検討という作業を繰り返すことで、国家や地域単位の歴史や歴史教育を比較し、大局から検討する視点を獲得する。	西暦奇数年度開講。
OATAE16	歴史教育演習II	2	1.0	1・2	秋AB	木3	國分 麻里	歴史教育について、多方面より発展的に一層学んでいくものである。具体的には、日本や世界の歴史教育に関する資料や論文を比較しながら読み、それに関する資料も含めて、総合的に考察していく。学生による報告と討論を通じて、歴史教育に関するより深い内容や方法を学ぶものである。授業の目標は次の2点である。(1)日本や世界の歴史教育に関する比較の視点で読むことができる。(2)多面的・多角的に文献を考察しながら報告し討論を通じて、自分の意見を相対化しながら、歴史教育についての理解を深める。	西暦奇数年度開講。
OATAE17	歴史教育演習III	2	1.0	1・2	春AB秋AB	応談	國分 麻里	日本史や世界史、歴史総合に関する歴史教育実践の単元構想を行い、検討を行なう。その上で、実際に模擬授業あるいは実験授業を実施して、その授業の目標や内容、方法の妥当性を検討する。その上で、授業者は授業を振り返り、自分や受講者による授業評価を行う。このような過程を終ることで、これからの歴史教育実践の在り方を検討することができる。また、授業づくりに必要とされる資質・能力を高めることができる。特に新設された歴史総合は近現代の日本史と世界史を扱うものであるから、重点的に取り上げる。	14条対応
OATAE18	歴史教育学特講	3	2.0	1・2	通年	応談	國分 麻里	韓国を中心とした東アジアの歴史教育と歴史学について講義および演習を通じて総合的に考察する。日本と朝鮮半島は隣国であるがゆえに、先史以来、様々なレベルで交流が行われてきた。近代や現代を経て、隣国理解、国際理解教育を推進するために、韓国巡検を実施し、東アジアの歴史に関する現状および教育を理解する。具体的には、韓国を中心とした東アジアの歴史教育と歴史学について、研究動向・教科書問題・歴史認識などの視点から考察する。	
OATAE19	公民教育特講I	1	1.0	1・2				公民教育に関する論文を収集して、1時間に一つの論文を読み進める。履修者は事前に論文を読んでくることを前提とし、授業では総合的なディスカッションを行い、公民教育研究(特に中学校社会科公民的分野)に関する知見を深めてもらうことにする。論文の選定にあたっては特に、中学校社会科公民的分野で焦点となっている、平和学習、人権学習、主権者教育、グローバル経済学習、開発教育といった内容について中心的に取り扱う。	西暦偶数年度開講。
OATAE20	公民教育特講II	1	1.0	1・2				公民教育に関する論文を収集して、1時間に一つの論文を読み進める。履修者は事前に論文を読んでくることを前提とし、授業では総合的なディスカッションを行い、公民教育研究(特に高等学校公民科)に関する知見を深めてもらうことにする。論文の選定にあたっては、高等学校公民科で焦点となっている、新科目「公共」、生命倫理教育、キャリア教育、アントレプレナーシップ教育といった内容について中心的に取り扱うことにする。	西暦偶数年度開講。

OATAE21	公民教育特講III	1	1.0	1・2	春AB秋AB	応談	唐木 清志	公民教育実践の動向を探り、いくつかの授業実践記録を読みながら、そこに自身がこれまでに実践してきた授業を重ね合わせて、公民教育実践の今後について深く探究する。授業実践記録として考えられるのは、初期社会科(昭和20年代の社会科)における実践記録、政治的中立性と関連した授業実践、高等学校社会科「現代社会」と関連した授業実践、そして、近年の社会的な見方・考え方と関連した授業実践など、社会科教育史における特徴的な授業記録を取り上げ、今日の公民教育授業を相対化する目を育てる。	14条対応
OATAE22	公民教育演習I	2	1.0	1・2	春AB	火3	唐木 清志	公民教育実践に関する先行実践を分析しながら、1時間に一つの教材を開発する。履修者はグループで一つのテーマを与えられ、関連する単元開発(特に中学校社会科公民的分野)を行なってもらうことになる。単元開発にあたっては、現代の諸課題、社会的な見方・考え方、授業評価の3つを柱とする。特に、現代の諸課題を教材化するにあたっては、グループで入念に題材を選び、それについて深く追究する。その際、課題の根底には価値の葛藤があることを念頭に置き、そこから社会的な見方・考え方が導き出されるように工夫をする。	西暦奇数年度開講。
OATAE23	公民教育演習II	2	1.0	1・2	秋AB	火3	唐木 清志	公民教育実践に関する先行実践を分析しながら、1時間に一つの教材を開発する。履修者はグループで一つのテーマを与えられ、関連する単元開発(特に高等学校公民科)を行なってもらうことになる。単元開発にあたっては、現代の諸課題、社会的な見方・考え方、授業評価の3つを柱とする。特に、現代の諸課題を教材化するにあたっては、グループで入念に題材を選び、それについて深く追究する。その際、課題の根底には価値の葛藤があることを念頭に置き、そこから社会的な見方・考え方が導き出されるように工夫をする。	西暦奇数年度開講。
OATAE24	公民教育演習III	2	1.0	1・2	春AB秋AB	応談	唐木 清志	公民教育実践に関する単元構想を行い、実際に模擬授業或いは実験授業を実施して、授業を振り返って、授業評価を行う。単元開発にあたっては、現代の諸課題、社会的な見方・考え方、授業評価の3つを柱とする。特に、現代の諸課題を教材化するにあたっては、グループで入念に題材を選び、それについて深く追究する。その際、課題の根底には価値の葛藤があることを念頭に置き、そこから社会的な見方・考え方が導き出されるように工夫をする。履修者はそのほとんどが現職教員であるため、自身の授業を振り返りながら単元開発を行う。	14条対応
OATAE25	人文地理学特講I	1	1.0	1・2	春AB	火1	森本 健弘	農業地理学についての研究成果を講義するとともに、農業地理の研究の動向や課題について講義する。さらに、農業地理だけでなく、他の地理学でも援用されるGISについて講義するとともに、地理学における方法論としてGISについて考察を加える。こうして、GISを援用した農業地理学の最新の研究動向を概観する。農業地理は地理学の中でも伝統のある研究分野であることから、これにより地理学のもともとの研究意義を考えることができる。	
OATAE26	人文地理学特講II	1	1.0	1・2	秋ABC	集中	金 玗辰	交通地理学および教育地理学について講義する。交通地理学は、大きくは経済地理に含まれるが、研究内容によっては文化地理に含まれることもあり、極めて多様性のある研究分野である。交通地理学の研究系譜をおうことで地理学全体の研究動向もみえてくる。教育地理学については、教育現象を地理学的に見ることで、教育活動を通して地理学は何を追究する学問かが見えてくる。地理学と教育との関連性を追究し、地理が実用性のある学問であることを認識することができる。	
OATAE27	人文地理学演習I	2	1.0	1・2	秋AB	火1	森本 健弘	農業・食料の地理学を中心とする講義と討論を行う。具体的には、農業・食料を、自然条件としての気候、土壌及び地形の観点、経済条件としての需要と消費の観点、社会・政治としての農業の近代化と国家、市場と交通、人口・労働力・土地所有の観点からそれぞれ探究する。その上で、農業・食料における革新、農業・食料の文化的枠組み、農業・食料と環境について、深く協議することを主たる内容とする。このような追究を通して、現代の日本及び世界情勢の理解における地理学の方法の重要性について理解を深めることになる。	

OATAE28	人文地理学演習II	2	1.0	1・2	春季休業 中	集中	金 玗辰	交通地理学や教育学地理学の論文を読み、研究の仕方について学ぶ。また、自分で論文発表をし、理論的な論文に基づき、自ら教材を構築する力を養わせる。また、具体的な対象地域を選び、地域性を背景とした交通や教育についての考察を行う。これにより、地理学の研究が地域性を背景として考察していることを見だし、地理学研究の意義や必要性について議論し、人文地理学についての洞察を深めさせるようにする。それとともに地誌学的重要性も認識することができる。	
OATAE29	自然地理学特講	1	1.0	1・2				地名の謎解きを行う際に自然地理的な知識が役に立つことを示したうえで、気候・地形・水文・土壌・植生の地理学的な見方を教授する。しかるのち、多角的な視点で自然地理学的素材に関する課題追究を行う。最後に、新たな謎解きを模索することで自然地理学的なパースペクティブを総括する。本授業では、自然地理学を構成する諸分野の基礎をテーマとし、自然環境のしくみに関する正しい理解を培うことを到達目標としているが、本授業のように例えば地名に注目することは、地理教育の教材研究としても役立つ視点であると考えている。	西暦偶数年度開講。
OATAE31	自然地理学演習	2	1.0	1・2	春AB	火2	山中 勤	自然景観を読み取る能力について問題提起したうえで、つくば市を対象とした基礎的な読図・図上作業について演習を行う。また、一般的な調査手順や報告書の作成に関して概説し、実際に身近な地域の野外調査を体験する。野外調査にあたっては、等高線抜描図・水系網・土地利用図・新旧地形図比、地形発達史・ハザードマップ、風景画シミュレーションの観点を大切に準備を進め、実際の調査では、簡易測量、景観観察、水質調査を中心に進める。	西暦奇数年度開講。
OATAE33	地理学野外実験	3	3.0	1・2	秋AB	集中	森本 健弘, 山中勤, 金 玗辰	調査対象地域を選定して、自然地理および人文地理の野外調査を実施する。これにより対象地域の理解を深めるとともに地域の課題を見だし、改善策を考察できるようにする。さらには、地域調査の方法を学ぶ。具体的な調査は、グループごとに調査計画を立案する。次に各グループのテーマに沿って予備調査・本調査・補足調査等を行い、調査結果についてグループ内外でディスカッションを行う。得られた成果は、最終的に冊子体の報告書として刊行する。	実験実施日と実験実施場所は後日決定。
OATAE34	日本史特講I	1	1.0	1・2				東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』（岩波書店、2015年）をテキストに、現在も続く様々の「歴史問題」について、フィールドワークもと取り入れながら講じる。具体的には、東京裁判、植民地支配、靖国神社公式参拝、歴史教科書問題、領土問題、戦争賠償、原爆投下問題について取り上げる。その上で、茨城県内の戦争遺跡、東京大空襲・戦災資料センターを調査する。これらの授業を通して、最終的には、歴史教育教材を開発する能力を高めることを目的とする。	西暦偶数年度開講。
OATAE35	日本史特講II	1	1.0	1・2				東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』（岩波書店、2015年）をテキストに、現在も続く様々の「歴史問題」について、フィールドワークもと取り入れながら講じる。具体的には、日米終戦、昭和天皇戦争責任、強制連行・強制労働、B級戦犯裁判、シベリア抑留問題、日朝歴史問題、復讐・引き揚げ、戦没者追悼・慰霊について取り上げる。その上で、国立歴史民俗博物館を調査する。これらの授業を通して、最終的には、歴史教育教材を開発する能力を高めることを目的とする。	西暦偶数年度開講。
OATAE36	日本史演習I	2	1.0	1・2	春AB	火4	三谷 芳幸	古代の法制史料『令集解』を精読し、律令国家の諸制度に関する理解を深める。	西暦奇数年度開講。
OATAE37	日本史演習II	2	1.0	1・2	秋AB	火4	三谷 芳幸	日本古代の法制史料『令集解』を精読し、律令制の運用実態に関する理解を深める。	西暦奇数年度開講。
OATAE38	民俗学実習	3	3.0	1・2				インタビュー調査並びに実地調査を通して、歴史教育における教材研究の在り方を検討するとともに、歴史教育についての理解を深める。	2025年度開講せず。
OATAE39	考古学特講I	1	1.0	1・2				「ヒト・モノ」を視点として歴史教育の在り方を探る。それぞれのナショナルアイデンティティを形成する歴史教育はどのようなものであったのか、主に先史から古代までを人類学的な視点から扱い、現代までつながる人類の歴史や多様性について考察する。また、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深める。具体的には、中学・高校歴史教科書に見られる先史時代・古代の扱い、考古学の歴史教育における役割、人類学視点からみる先史時代からの東アジア、北東アジアにおける交易システムと中世に触れる。	西暦偶数年度開講。

OATAE40	考古学特講II	1	1.0	1・2						「ヒト・モノ」を視点として歴史教育の在り方を探る。それぞれのナショナルアイデンティティを形成する歴史教育はどのようなものであったのか、主に先史から古代までを人類学的な視点から扱い、現代までつながる人類の歴史や多様性について考察する。また、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深める。具体的には、人類学・考古学的な成果による日本人、日本列島における政治中心と縁辺部の歴史観、民族誌にみる北方文化と日本、物質文化と歴史教育、時代のイメージと理解に触れる。	西暦偶数年度開講。
OATAE41	考古学演習I	2	1.0	1・2	春AB	木4	谷口 陽子			モノ資料に着目し、先史時代の日本列島および周辺地域を俯瞰的に概観し、歴史教育の中で人類学的視点がどのように利用可能か考える。具体的には、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深めることになる。歴史を教える立場として、まず、自分がどこから来たのか、何者であるのかを、歴史教育の視点から位置づけることを目標とする。それは、人類の系譜、先史時代の物質文化、気候変動と新石器化など俯瞰的な視点から、先史～古代に関する出来事を理解することにつながる。	西暦奇数年度開講。
OATAE42	考古学演習II	2	1.0	1・2	秋AB	木4	谷口 陽子			人類が発祥してから、拡散、分化や接触、そしてグローバルな統合へと向かうプロセスを俯瞰する視点から書かれた参考図書を利用し、人類学的な視点から、われわれはどこから来てどこに向かっているのか考察する。具体的には、モノ教育の視点から、物質文化・非物質文化の保存活用と歴史教育の役割について事例をもとに議論を深めることになる。歴史を教える立場として、まず、自分がどこから来たのか、何者であるのかを、歴史教育の視点から位置づけることを目標とする。それは、人類の系譜、先史時代の物質文化、気候変動と新石器化など俯瞰的な視点から、先史～古代に関する出来事を理解することにつながる。	西暦奇数年度開講。
OATAE43	考古学実習	3	3.0	1・2	夏季休業中	集中	谷口 陽子			考古遺跡や博物館を利用して物質資料を用いた歴史教育について理解を深める。本授業では、北東アジア、東アジアの古代史観を改めて捉えなおすことを目的とし、東北(青森、岩手周辺)あるいは中部高地(山梨、長野)の縄文時代を中心とする遺跡を巡り、遺跡の景観、立地、周辺環境を体感するとともに、遺跡地との交流を示す出土資料を見学する。モノ資料による歴史教育の体感と、歴史教科書に載せられていないような、広域の文化交流や物質移動の側面についても理解を深める。	9月末に青森県での実習を予定している(ただし状況によっては、変更の可能性がある)
OATAE44	社会学特講I	1	1.0	1・2						社会学理論と実証的研究の検討をつうじて、社会学の主たる理論・概念および視角・方法を習得し、現代社会の諸問題について理解する。具体的には、以下のテーマを取り扱う。つまり、社会学の誕生・発展・転回、リスク社会、情報・メディア社会、個人化と心理化、グローバリゼーション、再帰的近代化、ポストモダニズム、親密圏と公共圏である。導入教材として、日本社会学会理論応用事典刊行委員会『社会学理論応用事典』(丸善出版、2017年)と日本社会学会社会学事典刊行委員会『社会学事典』(丸善出版、2010年)を活用するが、授業ではそれぞれ関連する基本文献を提示する。	西暦偶数年度開講。
OATAE45	社会学特講II	1	1.0	1・2						社会学理論と実証的研究の検討をつうじて、社会学の主たる理論・概念および視角・方法を習得し、現代社会の諸問題について理解する。具体的には、以下のテーマを取り扱う。つまり、社会学の見方、福祉レジーム、社会的包摂と社会的排除、持続可能社会、社会関係資本、監視社会と生権力、サイバーカルチャーである。導入教材として、日本社会学会理論応用事典刊行委員会『社会学理論応用事典』(丸善出版、2017年)と日本社会学会社会学事典刊行委員会『社会学事典』(丸善出版、2010年)を活用するが、授業ではそれぞれ関連する基本文献を提示する。	西暦偶数年度開講。
OATAE46	社会学演習I	2	1.0	1・2	春AB	月5	森 直人			社会学のすぐれた実証研究の文献会読をつうじて、社会学の視角と主たる概念を用いて、種々の社会現象を読み解けるようになる。取り上げる社会現象は、行為・相互行為・意味、自己・主体・アイデンティティ、他者・関係・コミュニケーション、生命・身体、ジェンダー・セクシュアリティ、家族・ライフコース・教育、差別・逸脱・犯罪、知・言語、歴史・記憶、社会運動・社会構想である。授業では、社会学の議論が中心となるが、いずれの視点も公民教育の教材化にとって重要な視点であるので、本授業において履修者は授業づくりの能力を高めることができる。	西暦奇数年度開講。

OATAE47	社会学演習II	2	1.0	1・2	秋AB	月5	森 直人	社会学のすぐれた実証研究の文献会読をつうじて、社会学の視角と主たる概念を用いて、種々の社会現象を読み解けるようになる。取り上げる社会現象は、近代・社会変動・社会システム、宗教、権力・支配、法・政治、集団・組織、労働・産業・市場、階級・階層、表象・文化・消費、医療・福祉、科学・技術・環境・災害である。授業では、社会学の議論が中心となるが、いずれの視点も公民教育の教材化にとって重要な視点であるので、本授業において履修者は授業づくりの能力を高めることができる。	西暦奇数年度開講。
OATAE48	政治学特講I	1	1.0	1・2	春AB	金6	鈴木 創	2~3名の班ごとにテーマを設定し、主として高等学校政治・経済での選挙に関する授業を開発することを念頭に、政治学の学術書・学術論文を含む文献・資料等にあたり、教材研究を行う。なお、本授業では、選挙に関して高等学校政治・経済で取り上げるべきテーマを設定し、政治学における議論をフォローしながら探求するとともに、選挙に関わる諸現象を政治学的な視点を用いて理解することができるようになることを目的としている。	西暦奇数年度開講。
OATAE49	政治学特講II	1	1.0	1・2	秋AB	金6	鈴木 創	政治学特講Iで行った教材研究をもとに、主として高等学校政治・経済での選挙に関する授業を開発し、模擬授業を行う。なお、本授業では、政治学の学術的成果を踏まえて、選挙に関する授業を開発することができるとともに、開発した授業を実践し、その意義と限界、発展可能性について考察することができるようになることを目的としている。そのため、模擬授業に際しては、有権者の政治意識、選挙制度、選挙運動、投票行動が主たる教育内容として取り上げる。	西暦奇数年度開講。
OATAE50	政治学演習I	2	1.0	1・2				2~3名の班ごとにテーマを設定し、主として高等学校政治・経済での政策決定の制度や過程に関する授業を開発することを念頭に、政治学の学術書・学術論文を含む文献・資料等にあたり、教材研究を行う。なお、本授業では、政策決定の制度や過程に関して高等学校政治・経済で取り上げるべきテーマを設定し、政治学における議論をフォローしながら探求することができるとともに、策決定に関わる諸現象を政治学的な視点を用いて理解することができるようになることを目的としている。	西暦偶数年度開講。
OATAE51	政治学演習II	2	1.0	1・2				2~3名の班ごとにテーマを設定し、主として高等学校政治・経済での政策決定の制度や過程に関する授業を開発することを念頭に、政治学の学術書・学術論文を含む文献・資料等にあたり、教材研究を行う。なお、本授業では、政治学の学術的成果を踏まえて、政策決定の制度や過程に関する授業を開発することができるとともに、開発した授業を実践し、その意義と限界、発展可能性について考察することができるようになることを目的としている。	西暦偶数年度開講。
OATAE52	経済学特講I	1	1.0	1・2				ミクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の目的と概要、消費者理論の枠組み、需要関数の性質、消費者理論の応用、消費者余剰、需要の弾力性、企業理論の枠組み、生産者余剰、市場均衡、厚生経済学の基本定理といった事柄である。このうち特に前半の5つの項目(ミクロ経済学かの目的と概要～消費者余剰)については丁寧に取り上げ、ミクロ経済学の基礎について学んでもらう。入谷純・篠塚友一(2012)『ミクロ経済学講義』日本経済新聞社と、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報をテキストとして採用する。	西暦偶数年度開講。
OATAE53	経済学特講II	1	1.0	1・2				ミクロ経済学の応用とマクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の労働市場への応用、労働供給の理論の福祉政策への応用、政府の政策と労働市場の均衡、人的資本、マクロ経済学(概観)、国内総生産(GDP)、経済成長に関する事実、経済成長理論、金融システム、財政赤字と経済成長といった事柄である。大森義明『労働経済学』日本評論社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2009)『マクロ経済学』東洋経済新報社をテキストとして採用する。	西暦偶数年度開講。

OATAE54	経済学演習I	2	1.0	1・2							ミクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の目的と概要、消費者理論の枠組み、需要関数の性質、消費者理論の応用、消費者余剰、需要の弾力性、企業理論の枠組み、生産者余剰、市場均衡、厚生経済学の基本定理といった事柄である。このうち特に後半の5つの項目(需要の弾力性～厚生経済学の基本定理)については丁寧に取り上げ、ミクロ経済学の基礎について学んでもらう。入谷純・篠塚友一(2012)『ミクロ経済学講義』日本経済新聞社と、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報をテキストとして採用する。	西暦奇数年度開講。 2025年度開講せず。
OATAE55	経済学演習II	2	1.0	1・2							ミクロ経済学の応用とマクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の労働市場への応用、労働供給の理論の福祉政策への応用、政府の政策と労働市場の均衡、人的資本、マクロ経済学(概観)、国内総生産(GDP)、経済成長に関する事実、経済成長理論、金融システム、財政赤字と経済成長といった事柄である。大森義明『労働経済学』日本評論社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2009)『マクロ経済学』東洋経済新報社、グレゴリー・マンキュー(2014)『マンキュー経済学II マクロ編』東洋経済新報社をテキストとして取り上げる。	西暦奇数年度開講。 2025年度開講せず。
OATAE56	法学特講I	1	1.0	1・2							毎回1つないし2つの事例を取り上げ、かかる事例に対する教育対処と法的対処との可能性及び限界について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げた具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。事例として考えているのは、スポーツ事故、授業の進行方法と教員の適格性、学習障害・能力格差、有権者教育、法教育・道徳教育、児童生徒のSNS利用、売春及び薬物、児童生徒及び保護者の信仰である。	西暦偶数年度開講。
OATAE57	法学特講II	1	1.0	1・2							毎回1つないし2つの事例を取り上げ、かかる事例に対する教育対処と法的対処との可能性及び限界について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げた具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。事例として考えているのは、外国人生徒の扱い、性教育、カンニング、いじめとけんか、学校の地域貢献、保護者からのクレーム、PTAの任意加入、学校の個人情報管理である。	西暦偶数年度開講。
OATAE58	法学演習I	2	1.0	1・2	春AB	水3	星野 豊				2回の授業ごとに1つの事例を取り上げ、初回の授業でかかる事例における問題点の所在を洗い出し、次回の授業の中で、かかるトラブルに対する教育対処と法的対処との関係及び両対応の転換点について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げる具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。つまり、授業の進行と教員の適格性、政治思想教育の在り方、いじめ問題、カンニングである。	西暦奇数年度開講。
OATAE59	法学演習II	2	1.0	1・2	秋AB	水3	星野 豊				2回の授業ごとに1つの事例を取り上げ、初回の授業でかかる事例における問題点の所在を洗い出し、次回の授業の中で、かかるトラブルに対する教育対処と法的対処との関係及び両対応の転換点について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げる具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。つまり、学校改革と教員の役割、保護者からのクレーム、学校選択制と学校の統廃合、放射能汚染と風評被害である。	西暦奇数年度開講。
OATAE60	哲学特講I	1	1.0	1・2							現代哲学の問題について主要なテキストを読み、それが教育にいかに関与するかディスカッションする。具体的には、言語論的転回に関するディスカッションを深めた上で、言語論的転回が「教室」をいかに変容させるかについてさらにディスカッションを行う。近年の公民教育では、哲学対話が注目されている。旧来の一方的な教え込みの公民教育ではなく、生徒の自律性を保障した上での、対話的で協働的な学びを教室にどのように成立させるのか、この点について、履修者には教師として授業に臨む姿勢を身につけさせたい。	西暦奇数年度開講。 2025年度開講せず。

OATAE61	哲学特講I	1	1.0	1・2					現代哲学の問題について主要なテキストを読み、それが教育にいかにかに寄与するかディスカッションする。具体的には、現代思想における自由に関するディスカッションを深めた上で、哲学が「教室」をいかに変容させるかについてさらにディスカッションを行う。近年の公民教育では、哲学対話が注目されている。旧来の一方的な教え込みの公民教育ではなく、生徒の自律性を保障した上での、対話的で協働的な学びを教室にどのように成立させるのか、この点について、履修者には教師として授業に臨む姿勢を身につけさせたい。	西暦奇数年度開講。 2025年度開講せず。
OATAE62	哲学演習I	2	1.0	1・2					対話についての主要なテキストを読み、ディスカッションする。具体的には、現代思想における対話に関するディスカッションを深めた上で、対話が「教室」をいかに変容させるかについてさらにディスカッションを行う。近年の公民教育では、哲学対話が注目されている。旧来の一方的な教え込みの公民教育ではなく、生徒の自律性を保障した上での、対話的で協働的な学びを教室にどのように成立させるのか、この点について、履修者には教師として授業に臨む姿勢を身につけさせたい。	西暦偶数年度開講。
OATAE63	哲学演習II	2	1.0	1・2					現代思想の主要なテキストを読み、ディスカッションする。具体的には、現代思想においてなぜ言語が問題になるのかについて、ウィトゲンシュタイン、カルナップ、ベンヤミンを取り上げながらディスカッションを深める。次に、社会構成主義とは何かについて、ガーデン、デリダを取り上げてディスカッションをさらに深める。その上で、最終的には、「教室」を脱構築することの意義、「授業」を脱構築することの意義について、総合的なディスカッションを行う。	西暦偶数年度開講。
OATAE64	倫理学特講I	1	1.0	1・2	春AB	金4	千葉 建		倫理学の基本概念について検討する。なお、授業は受講者が作成したレジュメの発表を基にして行う。	西暦奇数年度開講。
OATAE65	倫理学特講II	1	1.0	1・2	秋AB	金4	千葉 建		倫理学の基本問題について検討する。なお、授業は受講者が作成したレジュメを基にして行う。	西暦奇数年度開講。
OATAE66	倫理学演習I	2	1.0	1・2					倫理学の根本問題を扱った西洋近現代の著作を精読し、テキストを読解する能力と倫理的に思考する能力を習得する。	西暦偶数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
OATAE67	倫理学演習II	2	1.0	1・2					倫理学の根本問題を扱った西洋近現代の著作を精読し、テキストを読解する能力と倫理的に思考する能力を発展させる。	西暦偶数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
OATAE68	東アジア史特講 I	1	1.0	1・2	春AB	月4	上田 裕之		中学校社会科および高校歴史総合・世界史探究の東アジア史に関わる部分について、歴史学分野の研究成果を担当教員が解説した上で、受講生の報告に基づいて教育上の可能性と留意点について検討する。特に、12世紀までを扱う。	西暦奇数年度開講。
OATAE69	東アジア史特講 II	1	1.0	1・2	秋AB	月4	上田 裕之		中学校社会科および高校歴史総合・世界史探究の東アジア史に関わる部分について、歴史学分野の研究成果を担当教員が解説した上で、受講生の報告に基づいて教育上の可能性と留意点について検討する。特に、13世紀以降を扱う。	西暦奇数年度開講。
OATAE70	東アジア史演習 I	2	1.0	1・2					中学校社会科および高校歴史総合・世界史探究の東アジア史に関わる部分について、受講生に歴史学分野の関係文献を精読・報告させ、教育上の可能性と留意点について検討する。特に、12世紀までを扱う。	西暦偶数年度開講。
OATAE71	東アジア史演習 II	2	1.0	1・2					中学校社会科および高校歴史総合・世界史探究の東アジア史に関わる部分について、受講生に歴史学分野の関係文献を精読・報告させ、教育上の可能性と留意点について検討する。特に、13世紀以降を扱う。	西暦偶数年度開講。

専門基礎科目(数学教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAF01	基礎数理学A	1	1.0	1・2	春A	水5,6	増岡 彰, 塩谷 真弘, 木下 保, 照井 章	高等学校で学ぶ数学をより高い視点から深く理解し、自在に活用できる知識と技能を身に付けることを目標として、1変数関数の微分積分学や、数ベクトルと行列の理論について現代数学の立場から捉えなおす。	
OATAF02	基礎数理学B	1	1.0	1・2	春B	水5,6	塩谷 真弘, 増岡 彰, 木下 保, 照井 章	基礎数理学Aの内容を前提として、引き続き微分積分学および線形代数の理論を現代数学の視点から捉えなおす。さらに、集合と写像の基本的な事項のような抽象的な内容も扱い、数学的な考え方をさまざまな場面で活用する力を身に付けることも目標とする。	
OATAF03	基礎数理学C	1	1.0	1・2	春C	水5,6	塩谷 真弘, 増岡 彰, 木下 保, 照井 章	基礎数理学A・Bの内容を前提として、引き続き微分積分学および線形代数の理論を現代数学の視点から捉えなおす。実数論の基礎や抽象ベクトル空間論のような、体系的な理論の学習を通じて、論理的に考え判断する能力を獲得することを旨とする。	

OATAF04	総合数学A	2	1.0	1・2	秋A	水3,4	竹山 美宏, 木下保, 照井 章, 塩谷真弘, 増岡 彰	数学のより深い理解を目指して、中学校および高等学校で学ぶ数学に関連する興味深いテーマについて専門的に学習する。講義および演習を行い、数学的な内容を表現する能力を身につけることも目標とする。
OATAF05	総合数学B	2	1.0	1・2	秋B	水・金4	竹山 美宏, 木下保, 照井 章, 塩谷真弘, 増岡 彰	数学のより深い理解を目指して、線形代数や微積分学など、大学初年級で学ぶ数学に関連する話題についてより高い視点から論じる。演習も行い、やや高度な議論を正確に展開する能力を身につけることも目標とする。
OATAF06	総合数学C	2	1.0	1・2	秋C	水4,金5	竹山 美宏, 照井章, 木下 保, 塩谷真弘, 増岡 彰	数学のより深い理解を目指して、現代的な代数学・幾何学・解析学・情報数学におけるやさしい話題を取り上げ、講義および演習を行う。この学習を通じて数学的な思考の有用さを理解し、創造性を養うことも目標とする。
OATAF07	現代数学基礎A	1	1.0	1・2	秋A	月3,4	川村 一宏, 木村健一郎, 竹山 美宏	現代数学において重要なトピックを取り上げ、講義・演習を行う。現代数学の諸分野を概観し、バランスの取れた数学観を身につけることを目標とする。
OATAF08	現代数学基礎B	1	1.0	1・2	秋B	月3,4	川村 一宏, 木村健一郎, 竹山 美宏	中学校および高等学校で学ぶ数学とつながる現代数学の話題について講義や演習を行う。やや高度な内容を主体的に学ぶことによって、より高い数学観を得ることを目指す。
OATAF09	現代数学基礎C	1	1.0	1・2	秋C	月3,4	川村 一宏, 木村健一郎, 竹山 美宏	現代数学における興味深いテーマについて、講義・演習によって基礎から発展まで体系的に学ぶ。論理的な思考力や時間をかけて考え抜く力を養い、積極的に活用できるようになることを目標とする。
OATAF10	現代数学特別研究A	2	1.0	1・2	春A	金4,5	竹山 美宏, 木村健一郎, 川村 一宏	数学のより幅広い理解を目指していくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のわかりやすい題材を取り扱う。
OATAF11	現代数学特別研究B	2	1.0	1・2	春B	金4,5	竹山 美宏, 木村健一郎, 川村 一宏	現代数学特別研究Aを前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のやや進んだ題材を取り扱う。
OATAF12	現代数学特別研究C	2	1.0	1・2	春C	金4,5	竹山 美宏, 木村健一郎, 川村 一宏	現代数学特別研究A・Bの内容を前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学の発展的な題材を取り扱う。
OATAF13	現代数学特別研究D	2	1.0	1・2	通年	応談	木村 健一郎, 竹山美宏, 川村 一宏	基礎数学A・B・Cおよび現代数学特別研究A・B・Cの内容を前提として、数学の幅広く深い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のより進んだ話題を取り扱う。
OATAF14	現代数学特別研究E	2	1.0	1・2	通年	応談	木村 健一郎, 竹山美宏, 川村 一宏	基礎数学A・B・Cおよび現代数学特別研究A・B・C・Dを前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のやや高度な話題を取り扱う。
OATAF15	現代数学特別研究F	2	1.0	1・2	春C	集中	木村 健一郎, 竹山美宏, 川村 一宏	現代数学の高度な話題について、講義・問題演習・輪講などを通して基本的な内容から学習し、数学をより幅広く理解することを目標とする。
OATAF16	数学教育研究方法論	1	2.0	1・2	春AB	木1,2	清水 美憲	数学教育における教授・学習に関する研究方法の理論的前提や認識論的立場について、研究事例の批評を通して検討する。授業の前半では、質的データの採取及び分析における前提、手法の意義と限界について学ぶとともに、最近のいくつかの研究事例について批判的に検討する。授業の後半では、数学科授業の分析に焦点化し、国際比較研究「学習者の観点からの授業研究(LPS)」による授業・インタビューデータの分析を事例として、数学科の授業の実証的研究における質的研究方法の意義と限界を探る。
OATAF17	数学教育学習論	1	2.0	1・2	秋AB	木3,4	清水 美憲	1970年代から今日までにいたる数学の学習に関する実証的研究の動向についてのその概略を講義するとともに、各時代の研究論文を読んで、その研究方法および知見を知る。特に、数学学習における内的理解と外的理解の問題、手続き的知識と概念的知識の関係及びその乖離の問題、数学の問題解決過程と数学学習の問題、数学の信念システムやメタ認知の問題、そして教室における学習と社会的・数学的規範の役割、学習における文化的要因の影響を中心に研究事例を検討する。

OATAF18	数学教育カリキュラム論	1	2.0	1・2	秋AB	火3,4	蒔苗 直道	数学教育におけるカリキュラム開発について、文献講読を通して考察する。この過程で、数学教育研究における基礎的用語や基本概念を理解するとともに、数学の指導内容やその取扱いについて学習する。また、数学のカリキュラムの構成原理や数学教育思想など幅広い視点からの考察を行い、日本の学習指導要領の変遷や海外のスタンダード、ナショナルカリキュラムなど実際の数学のカリキュラムを対象に、その学術的な分析や考察ができるように、数学教育研究の基礎としてカリキュラム開発の理解を深める。
OATAF19	数学教育内容論	1	2.0	1・2	秋AB	木1,2	小松 孝太郎	数学者、数学史、数学教育の三領域において突出した業績をあげたH. Freudenthalの数学的活動論を前提に、数学化を解説し、再組織化による指導系統こそが、教育課程の系統をなすことを確認する。そこでは内容上の矛盾が現れ、生徒のつまずき、それを解消する弁証法的対話も起こり得る。本講義では、内容にかかると教科書分析を通して、小学校から高等学校までの算数・数学教材を深める。
OATAF20	数学教育実践論演習(代数・幾何)	2	2.0	1・2	春AB	火3,4	蒔苗 直道	数学教育における代数・幾何領域に関する実践的演習を、文献講読に基づいて行う。数学教育上の実践的な課題に対する調査やデータ分析や解釈を含むような数学教育研究を取り上げる。高等学校の代数・幾何領域やこれらに関連する中学校の領域を視野に入れ、これらの実践的な課題に対する基礎的な研究方法を学習する。学習した内容を基に、学生の自身による課題設定や問題解決を行い、その発表と検討を通して、成果をまとめる演習を行う。
OATAF21	数学教育実践論演習(解析・確率統計・ICT利用)	2	2.0	1・2	春AB	木3,4	小松 孝太郎	数学教育における解析・確率統計領域及びICTに関する実践的演習を、文献講読に基づいて行う。解析領域では、関数、解析幾何、極限、微分積分学の基本定理などについての教材研究に、確率統計領域では統計的推測、ばらつき・変動性の扱い、データサイエンスなどの統計的方法を確認したうえでビッグデータ等の扱いにかかる批判的思考に焦点を当てる。これら領域および代数・幾何領域におけるICTを活用した数学探究を実践する。

専門基礎科目(理科教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAG01	理科教育基礎論	1	2.0	1	春AB	水1,2	遠藤 優介	現代理科教育研究の動向とその成果を理解し、修士課程で理科教育研究に取り組み、また修了後、理科教育研究力を有する理科教員となるための基礎を形成することを目標とする。授業全体を通して、歴史的社会的現象である理科教育を対象化し解明するための基本的な枠組みと、その研究成果・動向について講義する。具体的には、理科教育研究の射程に鑑み、理科教育目的論、理科教育内容論、理科教授・学習論、理科教育評価論及び現代理科教育論の基礎にある科学論等について論ずる。	
OATAG02	理科教育学演習	2	2.0	1	秋AB 秋C	水1,2 集中	山本 容子	理科教育研究を始めるための基礎的演習である。理科教育研究力とプレゼンテーション力の向上を図ることをねらいとする。理科教育関連の英語論文を読み、理科教育研究の実際・困難点・動向を把握する。前半は、理科教育の代表的な国際誌に掲載された最新の英語論文を各自で1本以上読み、その論文の内容を和訳してまとめ、発表し、相互に批判・検討を行う。後半は、理科教育における科学的な探究もしくは理科学習論に関する英語論文1本以上を全員で読み、和訳し、内容を検討する。さらに条件が整えば、集中にて、理科教育の実践を観察し討論する機会を設けたい。	
OATAG03	理科教育学習論	1	1.0	1・2	春AB	火1	山本 容子	子どもたちはいかに科学理論を構成するか、そして、教師は理科教育において子どもの見方と考え方をどのように変容させるか、認知心理学の視点を踏まえ、個別具体的な事例をもとに理解を深めることを目標とする。構成主義的理科学習論に関する代表的な書籍を読み、どのような教授学習方法を用いれば、子ども一人一人が持っている個性的な世界理解を尊重しながら新たな世界理解を構築できるのか、受講生による発表と議論を通して考究する。	
OATAG04	理科教育研究方法論	1	1.0	1	春C	集中	遠藤 優介	現代理科教育研究において用いられる基礎的な研究方法(アプローチ)について、その背後にある理論的前提を確認するとともに、具体的な研究事例を取り上げながら活用の実際を学ぶ。質的・量的な研究それぞれの特徴とその射程、調査計画の立て方やデータの集め方、分析方法などを中心に、解説と受講者による活動を交えながら実践的に検討する。	詳細後日周知

OATAG05	理科教育実践演習	2	1.0	1・2	秋AB	木5,6	山本 容子	理科授業づくりの演習を通して、理科教師として授業を構想・実践・改善するための実践的力量的向上を図ることを目標とする。前半は、理科の探究活動を中心とした理科授業づくりの理論・実践に関する資料(書籍・論文)を読み、内容をまとめ、発表・議論する。後半は、前半で調べた内容を踏まえて、学校現場で実践することを想定した中高理科の授業を、個人もしくはグループで構想・実践し、相互評価を行う。	
OATAG06	基礎物理学1	1	1.0	1・2	春AB	月3	森下 将史	教育現場における生徒の物理学への苦手意識払拭の一助として、理科教員を目指す学生に物理学の面白さを伝えることを目的とした講義を行う。物質の成り立ち、光の性質、力学、熱力学、電磁気学、原子物理学、天文学、素粒子物理学、物性物理学などのテーマについて、まず、物理学における基本概念と基本法則の誕生と変遷に注目して講義を行う。また、この中で、中等教育では触れられない、高度ではあるが興味深い現象や概念についても講義を行う。	
OATAG07	基礎化学1	1	1.0	1・2	春AB	火2	佐藤 智生、一戸雅聡、長友 重紀	高校化学を教えるために必要な化学の基礎的な知識を修得できるように、周期表、原子と分子の構造、化学結合、物質量、気体の状態方程式、エンタルピー、物質の三態、溶液と固体の性質など化学の基礎となる項目を講義する。	基礎化学2も受講することが望ましい。
OATAG08	基礎生物学1	1	1.0	1・2	春AB	火4	中山 剛、出川 洋介、石川 香	分子生物学、形態、生殖、進化、分類、生態などの基礎生物学の内容を、中高生に分かりやすく説明できるようにする。また、基礎生物学分野の研究がもたらす社会的側面についても理解し、討論できるようにする。	
OATAG09	基礎地学1	1	1.0	1・2	春AB	火5	角替 敏昭、上松 佐知子	理科の教員として必要な地学の基礎的な知識の習得のため、地球史、生命史、大陸形成史の基礎的な内容について講義する。授業の前半は、生命の誕生以降の地球の歴史と生物の進化およびそれらの相互作用によって作られてきた地球表層史を俯瞰する。また基本的な化石標本の調査と処理および同定記載、ならびに生層序対比、古生物地理、機能形態解析、系統樹作成を含めた進化的理論、化石成因論、古生態復元、古環境復元、化学化石分析などの具体的な研究例に基づき、実際の研究を行う上で必要な概念と手法を理解する。後半は、地球を構成する岩石のうち、特に火成岩と変成岩について、基礎的な分類から、その生成過程、起源、テクトニクス等に焦点を当てて講義する。本授業により、知識と理解力および問題解決能力を向上させる。	
OATAG10	基礎物理学2	1	1.0	1・2	秋AB	月3	中務 孝、森 正夫	中等教育における物理学の教員が背景知識として習得していることが望ましい、高度ではあるが興味深い現象や概念について講義する。題材として、結晶構造、相対性理論、フーリエ変換、数の概念、準周期系、カオス、エントロピー、トポロジー、フラクタル、などを扱う。ここでは特に、物理学と密接な関わりをもつ数学との関係に注目し、数学者が作り上げた抽象的な概念を物理学者が如何に現実の現象に応用してきたかを講義し、高度な現象や概念の理解を目指す。	
OATAG11	基礎化学2	1	1.0	1・2	秋AB	火2	佐藤 智生、一戸雅聡、長友 重紀	高校化学を教えるために不可欠な化学の基礎的な知識を修得できるように、基礎化学1に引き続き、化学平衡、酸と塩基、緩衝作用、酸化と還元、電池、化学熱力学、エントロピー、反応速度、活性化エネルギー、核化学、原子核、同位体、有機化学、立体化学、化学分析、クロマトグラフィーなど化学の基礎となる項目を講義する。	基礎化学1を受講していることが望ましい。
OATAG12	基礎生物学2	1	1.0	1・2	秋AB	月5	澤村 京一、八畑 謙介、横井 智之	理科の教員として必要な生物学の基礎的な知識を習得するため、動物生態学、保全生態学、遺伝学、進化学、動物系統分類学、動物形態学の基礎的な内容について講義する。	
OATAG13	基礎地学2	1	1.0	1・2	春C	月3,4	興野 純、藤野 滋弘	理科の教員として必要な地学の基礎的な知識の習得のため、地層学・層序学、鉱物学の基礎的な内容について講義する。授業の前半は堆積岩・堆積物の分類や生成過程、それらに記録された情報を読み取る手法を講義する。また、様々な種類の層序学的手法を用いて地層を対比し年代の新旧を知る方法についても解説する。授業の後半では、石英・長石・かんらん石・輝石などの主要な造岩鉱物の性質や、炭酸塩岩や土壌を構成する各種鉱物の性質について講義する。本授業により、知識と理解力および問題解決能力を向上させる。	
OATAG14	理科教育実験1	3	1.0	1・2	春AB	金3,4	森下 将史、長友 重紀、八畑 謙介、興野 純	物理、化学、生物、地学の各分野について、基礎的な実験・実習技術を習得し、科学全般の理解を深める。本実験により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。	教室は8B101他 1回目は 8B101号室にて物理の実験を行う。 その後の日程や教室についてはmanaba等で連絡する。

OATAG15	理科教育実験2	3	1.0	1・2	秋AB	金3,4	森下 将史, 佐藤 智生, 八畑 謙介, 角替 敏昭	物理、化学、生物、地学の各分野について、基礎的な実験・実習技術を習得し、科学全般の理解を深める。本実験により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。	教室は8B101他 1回目は 8B101号室にて物理の実験を行う。その後の日程や教室についてはmanaba等で連絡する。
OATAG16	物理学教育実験	3	1.0	1・2	秋B	水3-6	野村 晋太郎, 吉川 正志	身近な物理現象の理解と、教育現場における実習実験に創意工夫を行える技能の習得を目指して、実験実習を行う。テーマは大きく2つ行う。1つは、空気抵抗を受けながら落下する物体や自らが興味を抱く運動する物体について、デジタルカメラで撮影した動画から画像解析の技術を用い、物体の運動の解析を行う。もう1つは、エレキギターへのピックアップ部に着目し、実際にピックアップ部を自作して電磁誘導により弦の振動を電氣的に検出し、さらにオシロスコープでの観測を行う。	
OATAG17	化学教育実験	3	1.0	1・2	秋A	水3-6	長友 重紀, 一戸 雅聡	化学実験を行うことを通じて、化学的現象のモデル実験、観察、データ処理、教材制作の方法を研修し、化学教育における実験のあり方を考究する。本実験では各実験テーマについて「指導側と被指導側に分かれて行う」ことにより、化学教育の指導法についての理解力を向上させ、実践に必要な力を身につけることを目的とする。	対面実験を行う。教室に変更がある場合はmanabaitにて通知する。
OATAG18	生物学教育実験	3	1.0	1・2	春B	水3-6	澤村 京一, 八畑 謙介, 中山 剛, 横井 智之, 石川 香	中高生を対象とした生物観察・実験の指導ができるようになるため、生物学の様々な分野の実験を行う。	
OATAG19	地学教育実験	3	1.0	1・2	春A	水3-6	藤野 滋弘, 上松 佐知子	野外巡検の基礎を学ぶ。特に、堆積構造、岩石中の微細構造などの観察や、ルートマップ作成方法、クリノメーターでの走向・傾斜の測定方法、露頭の観察方法などを野外で学習する。本野外実験では事前学習および事後のレポート作成を必須とする。この野外実験を履修することにより、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。地学教育に欠かせない代表的な実験(例えば化石、地層、岩石、鉱物などの観察および鑑定)の手法を修得する。また野外における調査方法や危機管理方法を学習し、安全教育を実践する手法を修得する。	
OATAG22	理科野外実習インターンシップ	3	2.0	1・2	春C	集中	藤野 滋弘	附属坂戸高校の野外実習に参加し、野外実習における指導法や安全教育などの実践方法を担当教員および附属高校の教員から学ぶ。本インターンシップでは、事前学習を含む野外実習の企画と運営、および事後のレポート作成を必須とする。事前学習では、附属高校において指導法や安全教育などの指導方法を学習する。生徒向け野外活動のしおりなどを作成し、野外活動の全体を把握する。野外実習では事前学習で指導を受けた内容を実践する。特に野外での生徒指導方法や、安全対策、危機管理方法について学習する。また生徒の野外での研究活動や成果発表会の指導補助なども行う。事後学習として、附属高校において野外実習の総括を行う。最後にインターンシップのレポートを作成し、担当教員および附属高校教員からの指導を受ける。	日程は決定次第周知する。別途事前指導・事後指導を実施
OATAG23	物理学特講	1	1.0	1・2	春AB	月4	受川 史彦, 野村 晋太郎	物理学における基本概念の理解習得と、教育現場における機深い授業のための話題提供として、物理学における傑出した研究者たちの人物像を中心にセミナー形式の授業を行う。ピタゴラス、アルキメデス、アリストテレス、コペルニクス、ガリレオ、マックスウェル、アインシュタインなどの人物を題材とし、教員が題材とする研究者について概要を説明した後、さまざまな文献で受講生が調査してきた内容を発表し合い、理解を深めるとともに人物像をより具体化することを目指す。	
OATAG24	化学特講	1	1.0	1・2	春AB	金1	佐藤 智生, 一戸 雅聡, 長友 重紀	理科教育を志す受講生が現代化学の広がりや深みを理解できるように、現代化学のトピックスをその基礎になる考え方とともに講義する。	
OATAG25	生物学特講	1	1.0	1・2	春C	集中	出川 洋介, 横井 智之	自然界における生物の相互関係の理解を深めるため、特に植物・昆虫・菌類の関係を中心に講義と観察・実習を行う。観察・実習では、自然観察に必要な目と技術を養うことを目標とする。具体的には、野外での昆虫採集方法、標本の作り方に関する手法を理解させ、野外での昆虫採集の手法を習得し、標本の作り方、目の同定を実践する。講義では、昆虫を中心に動物の分類や生態を紹介し、自然の仕組みとそれを研究するための基礎的な事項について学習させる。最後に、菅平における代表的な自然植生と人為植生との違いを説明し、理解させる。この授業を通して、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。	菅平高原実験所にて実施。7月8日(火)～11日(金)

OATAG27	理科教育学特講	1	1.0	1・2	秋C	集中	山本 容子, 遠藤 優介, 大高 泉	現在展開されている理科教育学研究の最新の知見を把握し、それらについての理解を深めることを目標とする。具体的には、主に科学的知識・概念の獲得という部分に焦点を当て、そこに関係する諸側面として特に科学哲学、認識論、認知心理学研究を取り上げながら、各々について講義し、議論する。また、それらを踏まえた上で、現代理科教育論の基本的立場を再確認するとともに、今後の理科教育学研究における課題について総合的に検討する。	詳細後日周知
---------	---------	---	-----	-----	----	----	--------------------	---	--------

専門基礎科目(国際教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAL01	Education and an Interconnected World	1	2.0	1・2	春AB	金3,4,集中	菊地 かおり	国際教育に関する諸問題について、相互依存を深める世界との関連を視野に入れながら考察する。授業では、国際バカロレア (IB) を含む国際教育の定義を検討し、また、日本における国際化・グローバル化対応の教育政策の動向を概説することで、国際教育をめぐる国内外の取り組みについて検討する。まず、ユネスコやIBの文書、関連論文を手掛かりとして国際教育の定義を検討する。次に、IBのミッション・ステートメント、学習者像、国際的視野の位置づけを確認する。後半は、日本における動向に焦点を当て、戦後の国際理解教育の受容や近年のグローバル人材育成をめぐる議論について検討する。	This is a required course and is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. 英語で授業。
OATAL02	Research Methodology	1	1.0	1・2	春AB	火2,集中	菊地 かおり	修士論文の作成に必要な研究方法の基礎理論について検討する。まず、これまでの各目的の研究経験を振り返り、修士論文の作成に向けて必要となるステップを確認する。次に、研究の方法論を検討するために、実証主義、構築主義、批判理論といった研究上のスタンスの相違を比較検討し、研究上の問いや研究の意義を吟味する。また、これらのスタンスの相違が研究方法の選択にどのようにかかわってくるのかを理解する。最後に、量的研究と質的研究における代表的なデータ収集の方法として質問紙調査とインタビュー調査を取り上げ、可能となる分析や留意点について概説する。	This is a required course and is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. 英語で授業。
OATAL03	Research Design and Methods	1	2.0	1・2	春C	集中	古田 雄一, 徳永 智子, 名畑目 真吾, 菊地 かおり	修士論文の執筆に必要な理論と実践を修得する。前半部分では、研究計画の立案方法、具体的な「問い」の立て方、先行研究の分析、様々な研究手法について理論を中心に学習を進める。後半部分では、前半に学習した理論を基に実践力を高める授業を実施する。具体的には、修士論文作成のためのインタビュー調査、質問紙調査などを作成し、グループ学習、学校訪問、被験者の招聘などを通じて実際に調査を試み、研究スキルを向上させる。	This is a required course and is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. 英語で授業。
OATAL04	Pedagogy for a Changing World I	1	2.0	1・2	春AB	水3,4	Carol Inugai-Dixon	国際バカロレア (IB) 等の国際教育の教育者として、教授上のアイデンティティを理解できるようになることを目標とする。振り返りによる批判的洞察を伴う経験学習及びその理論の検討を通して、21世紀の教育者としての行為主体性を理解する。授業では、国際バカロレアのビジョン、協働的探究、批判的思考、学習理論、社会的・情緒的・倫理的 (SEE) 学習、ホリスティック (包括的) 教育、多言語主義、認知的学習的言語運用能力 (CALP) 等をトピックとして扱い、国際教育における教授・学習理論について検討する。	This course is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. 英語で授業。オンライン (同時双方向型)

OATAL05	Pedagogy for a Changing World II	1	2.0	1・2	秋AB	水3,4	Carol Inugai-Dixon	本授業における学習を通して、国際的な教育者としての教授上のアイデンティティと行為主体性の育成を図る。授業では、国際バカロレア (IB) 等にみられる探究に基づく学習の教授実践の中心的原則である「知の理論 (Theory of Knowledge: TOK)」について検討する。授業では、TOKの枠組みである「知るための方法 (WOKs)」と「知識の領域 (AOKs)」を手がかりとして、感覚、芸術、言語、物語、感情、記憶などに着目し、批判的思考の育成方法及び変容を促す教育について理解する。	This course is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. Students enrolling in this course must have successfully completed OATAL04. 英語で授業。オンライン (同時双方向型)
OATAL06	Assessment for Learning I	1	2.0	1・2	春AB	金1,2	梅津 静子	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育における様々な評価法を理解しながら、学習内容の評価だけでなく、学びのための評価やフィードバックについて考察と実践を深める。ICT活用やポートフォリオといった取り組みについても学ぶ。経験学習を通して、協働活動も行う。授業の前半は、評価に関する理論とIBの各プログラムにおける評価の特徴を理解するとともに、形成的評価・総括的評価、セルフアセスメント、ピアアセスメント等の多様な評価方法を整理する。後半は、評価課題やルーブリックを作成し、発表を行う。	This course is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. 英語で授業。
OATAL07	Assessment for Learning II	1	2.0	1・2	秋AB	金1,2	梅津 静子	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育における様々な評価法についての理解を深化させる。学習内容の評価だけでなく、学びのための評価やフィードバックについて実践的に取り組む。経験学習を通して、協働活動も行い、実際の評価法についてプランナーを作成しながら検討する。授業の前半では、発達段階や学習活動に応じた評価方法について理解を深める。後半では、それらの理解をもとに各プログラムや発達段階に対応した評価課題及びルーブリックを作成し、発表を行う。	This course is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. Students enrolling in this course must have successfully completed OATAL06. 英語で授業。
OATAL08	Curriculum as Process I	1	2.0	1・2	春AB	木3,4	梅津 静子	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育の理論、カリキュラム概要やフレームワークを理解する。発達段階やそれぞれの国の文脈に対応したカリキュラムについても考察する。経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、まず、カリキュラム論における議論を参照し、イデオロギーの相違を整理した上で、IBの各プログラムのカリキュラムフレームを理解する。次に、各国における公的カリキュラムの検討を行い、その特徴を比較する。最後に、カリキュラムのデザインとそのプロセスについて検討し、発表を行う。	This course is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. 英語で授業。
OATAL09	Curriculum as Process II	1	2.0	1・2	秋AB	木3,4	梅津 静子	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育の理論、カリキュラム概要やフレームワークを深く理解する。IBのカリキュラムフレームワークを通して、具体的なカリキュラム・プランニングやデザインを実践する。討論や協働活動、課題発表も行い、探究を深める。授業の前半では、探究学習、概念学習、学際的・教科横断的学習、経験学習など学習形態に応じたカリキュラム・プランニングについて検討する。後半では、カリキュラム・マッピングを行い、ユニットプランナー (単元指導案) を作成し、発表を行う。	This course is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. Students enrolling in this course must have successfully completed OATAL08. 英語で授業。

OATAL10	The IB Primary Years Programme	1	2.0	1・2	秋ABC	集中		国際バカロレア (IB) 全体、そして、IBの初等教育プログラム (Primary Years Programme: PYP) の教育理論、カリキュラムフレームワークや教授法を理解する。様々な状況や文脈での国際バカロレア教育の導入や実践についても考察する。IBの教育を模範にしながら、経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、PYPに着眼して、学習と指導の方法、カリキュラム開発、探究学習、評価について理解を深める。後半では、PYPの最終の評価課題であるエキジビションに取り組み、その成果を発表する。	This course is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. Prerequisites: OATAL04, OATAL06 & OATAL08. 英語で授業。
OATAL11	The IB Middle Years Programme	1	2.0	1・2	秋ABC	集中		国際バカロレア (IB) 全体、そして、IBの中等教育プログラム (Middle Years Programme: MYP) の教育理論、カリキュラムフレームワークや教授法を理解する。様々な状況や文脈での国際バカロレア教育の導入や実践についても考察する。IBの教育を模範にしながら、経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、MYPに着眼して、学習と指導の方法、カリキュラム開発、探究学習、評価について理解を深める。後半では、MYPの最終の評価課題であるパーソナルプロジェクトに取り組み、その成果を発表する。	This course is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. Prerequisites: OATAL04, OATAL06 & OATAL08. 英語で授業。
OATAL12	The IB Diploma Programme	1	2.0	1・2	秋ABC	集中		国際バカロレア (IB) 全体、そして、IBのディプロマプログラム (Diploma Programme: DP) の教育理論、カリキュラムフレームワークや教授法を理解する。様々な状況や文脈での国際バカロレア教育の導入や実践についても考察する。IBの教育を模範にしながら、経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、DPIに着眼して、学習と指導の方法、カリキュラム開発、探究学習、評価について理解を深める。後半では、DPの最終の評価課題である課題論文に取り組み、その成果を発表する。	This course is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. Prerequisites: OATAL04, OATAL06 & OATAL08. 英語で授業。
OATAL13	Professional Learning and Reflective Practice	1	1.0	1・2	春AB	月3	Carol Inugai-Dixon	国際バカロレア (IB) における振り返りと専門職能開発を中心として、その役割と意義について検討する。授業の前半では、IBのカリキュラムの改訂サイクル、教師に期待されるセルフスタディ及び生涯学習のあり方について検討する。また、IBによる定期評価及び専門研修の仕組みについて理解する。授業の後半では、振り返りの方法としてのアクションリサーチ、専門職能開発としてのポートフォリオに着眼し、その意義と実践方法について理解を深める。	This course is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. Students from outside the subprogram in IE should contact the instructor before registering. 英語で授業。オンライン (同時双方向型)
OATAL15	国際理解教育論	1	2.0	1・2				日本における国際理解教育について検討する。在日コリアンの教育、帰国児童生徒教育、外国籍児童生徒教育等を事例としながら現代的な教育課題について考察する。授業では、まず、日本における国際理解教育の展開について整理し、その課題の変遷を把握する。次に、個別の教育課題として、在日コリアンの教育、帰国児童生徒教育、外国籍児童生徒教育等を事例として、その課題の背景にある社会変化及び関連施策について理解を深める。授業の後半では、これらの事例に共通する課題として、教育の機会均等、学校適応、母語保持などを取り上げ、子どもたちの文化的・言語的多様性に対応した学校教育のあり方を検討する。	西暦奇数年度開講。2025年度開講せず。要望があれば英語で授業

OATAL16	グローバル化と教育	1	2.0	1・2				グローバル時代の教育に影響を与える社会・政治理論について検討する。ナショナリズム、多文化主義、新自由主義、シティズンシップ等を鍵概念としながら、現代の教育改革との関わりにおいてその理論的潮流を把握する。授業の前半では、新自由主義と教育改革に関する文献を講読する。新自由主義に基づく考え方が、どのように教育改革や学校経営、授業実践に影響を及ぼしているのか、また世界各国でその潮流にどのような相違がみられるのかを検討する。授業の後半では、多文化主義・間文化主義などの多様性と統合に関する文献を講読する。多様な社会統合モデルを比較検討しつつ、人びとの多様性を包摂するような社会及び教育のあり方について検討する。	西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業
OATAL22	Education in Japan: Principles Policies and Practice	1	1.0	1・2	春AB	4月	菊地 かおり, 梅津 静子, 藤田 晃之, 清水 美恵, 田中正弘, 徳永 智子, タスタンベコワ クアニシ, 山本 容子, 京免 徹雄, 川上 若奈	現代日本の教育をめぐる論点を政策、制度、実践といった多角的な視点から理解し、またその課題について十分な知識をもとに論じることができるようになることを目標とする。授業では、日本の教育をめぐるさまざまなテーマを取り上げ、その原理、政策、実践を概説する。具体的には、教育制度、学校経営、数学教育、理科教育、社会科教育、言語教育政策、道徳教育、特別支援教育、高等教育をテーマとし、近年の改革動向とその課題を提示する。授業の内容をもとに討論を行い、論点についての理解を深める。なお、主として英語で授業を行う。	英語で授業。
OATAL23	Frontier of Educational Research	1	1.0	1・2	秋AB	3月	梅津 静子, 古田 雄一, 藤田 晃之, 遠藤 優介, 菊地 かおり, 川上 若奈, 勝田 光, 小松 孝太郎, 田中正弘	教育学の研究に関する動向と最前線に関して論議を行う。特に、国際的な動向を考慮して、解説と討議を行う。課題の発表や協働学習も行う。国際的に用いられている教育学の概念の検討、授業研究、社会学的研究、国際機関や諸外国の教育施策、学校経営やキャリア教育の国際比較、日本の教育実態に関する海外への発信、教育の実践の分析といったトピックについて学び、受講生の知識と研究能力を向上する。	授業の使用言語：英語 (ただし日本語による補足解説あり) この授業は英語で行われるが、日本語による解説も受講者の希望やニーズに応じて加えられる。このため、英語話者だけではなく、日本語話者の授業の履修も推奨される。研究成果の海外における発表を希望する学生は受講してほしい。国際教育SPの学生だけでなく、教育基礎科学SP、次世代学校教育創成SP、博士後期課程の学生の履修も歓迎する。 英語で授業。
OATAL24	Field Research I	2	1.0	1・2	春C	集中	梅津 静子, 菊地 かおり	国際バカロレア (IB) 認定校においてグローバルな文脈を取り入れた探究学習の授業実践を行う。まず、事前に学校訪問及び授業参観を行い、学校の特色や児童生徒の実態を把握しつつ、IBの各プログラムの授業について理解を深める。その後、IB校の教員の助言を受けながら探究学習のユニットプランナー (単元指導案) を作成し、実践する。毎回の授業後に振り返りを行い、授業実践スキルの向上を目指す。指導後には全体での振り返りを行い、各自の授業実践の振り返りを共有し、改善策を検討する。	英語で授業。
OATAL25	Field Research II	2	1.0	1・2	秋BC	集中	梅津 静子	国際バカロレア (IB) 認定校においてグローバルな文脈を取り入れた探究学習の授業実践を行う。Field Research Iでの学修をより深化させ、IBの各プログラム (PYP, MYP, DP) の特徴を理解した上で、IB校の教員の助言を受けながら探究学習のユニットプランナー (単元指導案) を作成し、実践する。授業後に振り返りを行い、授業実践スキルの熟達を目指す。	英語で授業。
OATAL26	Immigrant Children, Youth and Education	2	2.0	1・2	春AB秋AB	火4	徳永 智子	多文化化が進化する社会において、移民の子ども・若者を取り巻く社会的・文化的文脈を考察し、文化のはざま、帰属、トランスナショナリズム、文化に対応した教育 (CRP)、地域支援などのキーワードを掘り下げながら、かれらの多様なアイデンティティや経験への理解を深めることを目的とする。また、移民の子ども・若者について描かれた質的調査による論文・文献を講読し、研究方法論についても検討する。毎回受講生が発表し、全員で討論するため、積極的な参加が求められる。	英語で授業。

専門基礎科目 (初等教科教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATAM01	初等国語特講a	1	1.0	1・2	春C	木5, 6	今田 水穂, 菊池 そのみ	小学校国語科での授業に必要な国語に関する基礎的な事項を確認したうえで、応用的な知見や技能を身につけることを目標とする。具体的には、小学校での国語科の授業に必要な国語に関する知識・技能の向上をねらう。特に伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について、漢文学や国語学を中心に扱う。	西暦奇数年度開講。 オンライン (オンデマンド型)

OATAM02	初等国語特講b	1	1.0	1・2				小学校国語科での授業に必要な国語に関する基礎的な事項を確認したうえで、応用的な知見や技能を身につけることを目標とする。具体的には、小学校での国語科の授業に必要な国語に関する知識・技能の向上をねらう。特に伝統的な言語文化について国文学を中心に取り扱う。また、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことなどの国語に関する技能についてもトレーニングしていく。なお、いずれの時間も小学校での実践的な指導や教材化に関する討議を含む。	西暦偶数年度開講。
OATAM03	初等社会特講	1	1.0	1・2	夏季休業中	集中	國分 麻里, 唐木清志, 金 玗辰	初等社会科教育課程の内容構成を前提として、教科「社会」を担当する教員に必要な教科の専門的知識及び技能を習得してもらうことを目標とする。本授業では、初等社会科教育課程を構成する「地域学習」(3・4年)「産業学習」(5年)「国土学習」(5年)「歴史学習」(6年)「政治学習」(6年)「国際学習」(6年)について、地理学・歴史学・社会諸科学(公民)の各学問領域の立場から、社会科の教材開発に必要な専門的知識及び技能を身につけてもらう。	
OATAM04	初等数学特講	1	1.0	1・2				算数の背景にある数学の基礎的な概念や、学問としての数学の知識や技能、数学的な論理の展開の方法を基に、算数についての理解を深めることを目標とする。	西暦偶数年度開講。
OATAM05	初等理科特講	1	1.0	1・2	通年	応談	山本 容子, 森下 将史, 佐藤 智生, 八畑 謙介, 角替 敏昭	本授業では、1小学校理科の内容のうち、物理・化学・生物・地学分野に關係する基礎的・基本的知識を身につける、2小学校理科の実験のうち、物理・化学・生物・地学分野に関する基礎的・基本的技能を身につける、の2つを目標とする。具体的には、小学校理科(物理・化学・生物・地学)に関する基礎的・基本的な内容(実験を含む)について解説・検討するとともに、それらの内容から中学校理科の内容への接続という観点に基づいた議論を行う。	
OATAM06	初等英語特講	1	1.0	1・2	秋AB	木4	名畑目 真吾	年少者が外国語として英語を習得・学習する際のメカニズムを文献講読によって理解し、国内の小学校英語教育について理論的・批判的に考えを深めることができることを目標とする。具体的に、外国語としての英語の習得における年齢要因について、各技能や動機づけ、方略使用の観点から検討する。また、小学校学習指導要領の目標と内容、ならびに学習理論についても扱い、英語学や応用言語学などの知見にも触れながら、子どもの発達をふまえた複眼的な検討を行う。	小学校専修免許対応はR2年度以降の入学学生のみ。 対面
OATAM07	初等図画工作特講	1	1.0	1・2	春C	火3,4	石崎 和宏	小学校学習指導要領の「図画工作」における目標と内容の理論的背景を検討しつつ、指導実践に向けた学習理論について理解することを目標とする。そのために、本授業では、小学校学習指導要領の目標と内容、ならびに学習理論について、表現領域と鑑賞領域ごとに子どもの発達をふまえて複眼的に検討を行う。具体的には、描画表現と鑑賞活動における子どもの発達理論、造形表現と鑑賞を支援する学習方略、造形表現と鑑賞を支援するツールの開発、表現と鑑賞をつなぐ図画工作の授業構想について議論する。	
OATAM08	初等体育特講	1	1.0	1・2	秋AB	金4	宮崎 明世	小学校期の身体的・精神的・社会的発達の特徴を学習し、初等教育における「体育」の重要性を理解する。それらに対応した、動きづくり、運動の理解、態度形成と言語活動について専門的な知識を身に付ける。さらに、学習指導要領の学習内容に対応した具体的な運動プログラムを考えられるようになることを目標とする。具体的には、小学校段階の身体的な発達の特徴と身体活動の重要性を、講義を通して理解し、基礎的・発展的な「動きづくり」について検討する。また、認知的・精神的な発達の特徴を理解し、小学校体育で求められる運動に関する理解について検討する。社会的な発達と特徴について理解し、体育における仲間作りと態度形成、言語活動とコミュニケーションについて検討する。専門的な知識をともに、具体的な学習内容や指導方法について考える力を身につける。	小学校1種免許を取得している初等専修免許取得希望者に限る。

専門科目(教育基礎科学)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAN01	教育学研究I		2	3.0	1	通年	応談 藤井 穂高, 平井 悠介, 徳永 智子, 京免 徹雄, 濱田 博文, 藤田 晃之, 樋口 直宏, 平田 諭治, 上田 孝典, 田中 マリア, タスタンベコワ クアニシ, 田中 正弘, 田中 怜, 長田 友紀, 古田 雄一, 朝倉 雅史	教育学をテーマとして研究するにあたり、学術論文を執筆するための基礎的な理論と方法を学ぶ。	

OATAN02	教育学研究II	2	3.0	2	通年	応談	藤井 穂高, 平井 悠介, 徳永 智子, 京免 徹雄, 濱田 博文, 藤田 晃之, 樋口 直宏, 平田 諭治, 上田 孝典, 田中 マリア, タスタンベコワ クアニシ, 田中 正弘, 田中 怜, 長田 友紀, 古田 雄一, 朝倉 雅史	教育学の基盤を形成する各学問領域に関する最新の研究論文をそれぞれ2本ずつ選択し、その検討を通して研究論文の執筆に関わる専門的な知識と汎用的なスキルを身につける。また後半では受講者が研究テーマと論文構想を発表し、全員で討議を行う。
OATAN03	教育学研究III	2	3.0	2	通年	応談	藤井 穂高, 平井 悠介, 徳永 智子, 京免 徹雄, 濱田 博文, 藤田 晃之, 樋口 直宏, 平田 諭治, 上田 孝典, 田中 マリア, タスタンベコワ クアニシ, 田中 正弘, 田中 怜, 長田 友紀, 古田 雄一, 朝倉 雅史	各自の研究テーマに即した担当指導教員のもとで、個別に指導を受けながら修士論文の執筆を進め、中間と期末に全員参加による発表と質疑応答を行う全体検討会を実施する。

専門科目 (学校教育・SL)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAPO1	次世代教育研究I	2	3.0	1	通年	応談	上田 孝典, タスタンベコワ クアニシ, 太田 知彩, 濱田 博文, 佐藤 有耕, 樋口 直宏, 平田 諭治, 藤井 穂高, 丹間 康仁, 古田 雄一, 朝倉 雅史, 田中 怜	次世代学校教育創成に関心をもつ受講者を対象に、教育学研究の領域別の特色、成果、課題、今後の経営戦略とスクールリーダーの役割等について、研究を展開する上での理論と方法を検討する。	
OATAPO2	次世代教育研究II	2	3.0	2	通年	応談	上田 孝典, タスタンベコワ クアニシ, 太田 知彩, 濱田 博文, 佐藤 有耕, 樋口 直宏, 平田 諭治, 藤井 穂高, 丹間 康仁, 古田 雄一, 朝倉 雅史, 田中 怜	次世代学校教育創成に関心をもつ受講者を対象に、スクールリーダーおよび高度専門職業人の基礎的資質と能力形成に向けて、教育学研究の領域別の実践を分析・考察する。	14条対応
OATAPO3	次世代教育研究III	2	3.0	2	通年	応談	上田 孝典, タスタンベコワ クアニシ, 太田 知彩, 濱田 博文, 佐藤 有耕, 樋口 直宏, 平田 諭治, 藤井 穂高, 丹間 康仁, 古田 雄一, 朝倉 雅史, 田中 怜	次世代学校教育創成に関心をもつ受講者を対象に、修士論文・実践研究報告書の作成に向けて各自の専門領域に沿って学習を深め、成果を発表する。	14条対応

専門科目 (学校教育・英語教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAU01	英語教育学研究I	2	3.0	1	通年	応談	名畑目 真吾	英語教育学研究の基本的な進め方に関して、文献講読を通して理解を深める。具体的には、まず英語教育研究とは何かを学び、研究の目的や研究の種類、研究のプロセスについて知る。そして、研究テーマの決め方や先行研究とのつながりについて理解し、データ収集方法や量的・質的なデータ分析アプローチについても学ぶ。さらに、研究成果を公表する方法や論文の構成、及び引用文献の書き方などの基礎的な知識を得ることで、英語教育研究を行う素養を身に付ける。	
OATAU02	英語教育学研究II	2	3.0	2	通年	応談	名畑目 真吾	英語教育学研究の在り方や様々なトピックについて、文献講読によって理解を深める。具体的には英語教育研究の学際性について理解し、第二言語習得論や認知科学、心理言語学といった関わりが強い分野とのつながりについて学ぶ。さらに、教育工学や自然言語処理、脳科学といった分野との関わりについても知る。そして、実際の英語教育研究のトピックとして、4技能や文法習得、教員養成、異文化理解など幅広い研究の在り方について学ぶことで、自身が行う研究を深めることを目指す。	14条対応

OATAU03	英語教育学研究III	2	3.0	2	通年	応談	名畑目 真吾	英語教育学研究の立案から実施までを行い、その成果を発表する。授業前半では、研究テーマ、研究方法について検討を重ねて決定することを目標とする。授業後半では実際のデータ収集及びデータ解析を行い、分析結果の考察、先行研究との比較などを通して、研究の教育的・学術的な示唆を導くようにする。最後に、研究成果発表に向けての準備を行い、最終的に研究成果をプレゼンテーションにより発表することを目指し、自身の研究成果の公表へとつなげる。	14条対応
---------	------------	---	-----	---	----	----	--------	--	-------

専門科目(学校教育・芸術科教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAV01	芸術科教育学研究I	2	3.0	1	通年	応談	石崎 和宏	芸術科教育におけるさまざまな実践課題の研究方法についての理解を深め、特定実践課題で立案した計画を遂行し、その成果と課題について考察することを目的とする。そのため、個別的教育実践研究テーマから策定した研究の目的と方法に基づいてリサーチを実施し、その成果と課題を考察する。具体的には、リサーチプランにおけるテーマと方法の発表、データ収集の実施、データの量的・質的分析の検討、先行研究との比較分析を通して、リサーチに基づく今後の芸術教育の課題を検討する。	
OATAV02	芸術科教育学研究II	2	3.0	2	通年	応談	石崎 和宏	芸術科教育におけるさまざまな実践課題の研究方法についての理解を深め、特定実践課題で立案した計画を遂行し、その成果と課題について考察することを目的とする。そのため、個別的教育実践研究テーマから策定した研究の目的と方法に基づいてリサーチを実施し、その成果と課題を考察する。具体的には、芸術科教育におけるエッセンシャル・クエッション、ピラミッド・ストラクチャーによる研究構想の具体化、芸術科教育におけるリサーチメソッドの検討、各自の特定課題リサーチデータの分析を通して、リサーチに基づく今後の芸術教育の課題を検討する。	14条対応
OATAV03	芸術科教育学研究III	2	3.0	2	通年	応談	石崎 和宏	芸術科教育における課題解決に向けた研究方法について理解を深め、受講者の設定した特定課題についてリサーチを計画し、その遂行と結果について複眼的に考察することを目的とする。さらに、修士論文にかかわる個別の研究テーマに基づいて研究の目的と方法を具体化し、アートベース・リサーチ(Arts-Based Research)の方法論についての理解を深めつつ、それを活用した具体的リサーチを実施し、その成果と課題を考察する。具体的には、各特定課題に対するアートベース・リサーチのメリットや限界をふまえ、アートベース・リサーチの視点からのデータ分析と解釈を行い、各特定課題に対する結論を検討する。	14条対応

専門科目(学校教育・保健体育教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAW01	保健体育教育学研究I	2	3.0	1	通年	応談	宮崎 明世	保健体育教育学研究Iでは、体育のカリキュラム論、学習指導論、指導方略・指導技術などの観点から体育科教育学の基礎を学び、理解する。また、体育科教育学の今日的課題を取り上げて議論することで、各自の問題意識を明確にする。さらに各自の問題意識に基づいた課題を設定し、課題に応じた基礎となる領域の文献を講読するとともに先行研究を探し手学習し、自身の研究についての枠組みをつくる。	
OATAW02	保健体育教育学研究II	2	3.0	2	通年	応談	宮崎 明世	保健体育教育学研究Iで身に付けた基礎をもとに、各自の問題意識に基づいた課題解決の方法を検討する。体育科教育学研究の進め方について先行研究をもとにさまざまな角度から学ぶことによって、自らの課題解決に適した研究計画を立案する。課題解決のためのプロセスを手順に則って進め、予備的な実践を行ってその成果と課題を明らかにし、現実的な研究の方法を追求する。	14条対応
OATAW03	保健体育教育学研究III	2	3.0	2	通年	応談	宮崎 明世	保健体育教育学IおよびIIにおける学習をもとに、自ら立案した研究計画に則って研究を進める。また、海外を含めた体育科教育学研究の動向や研究の基礎、進め方についても並行して学習を進め、自らの研究に役立つ理論や先行研究の知見を活用できるようにする。授業の中で研究発表を行って情報を共有するとともに、研究についての議論を行う。	14条対応

専門科目(国語教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATAQ01	国語教育学研究I	2	3.0	1	通年	応談	長田 友紀, 馬場美佳, 石塚 修, 島田 康行, 橋本 修, 吉森 佳奈子, 稀代麻也子, 今田 水穂, 那須 昭夫, 田川 拓海, 勝田 光, 菊池 そのみ	国語科の各領域に関する研究を収集し、今日的な課題を把握すると同時に、現時点での達成水準を理解する。そのうえで、各自の研究テーマについてのレポートを作成し、討議をとおしてそれらを分析し評価するとともに自ら新たな視点を提案するための提案するための知見や方法を獲得する。	対面
OATAQ02	国語教育学研究II	2	3.0	2	通年	応談	長田 友紀, 馬場美佳, 石塚 修, 島田 康行, 橋本 修, 吉森 佳奈子, 稀代麻也子, 今田 水穂, 那須 昭夫, 田川 拓海, 勝田 光, 菊池 そのみ	国語科の各領域に関する研究について、各自の問題意識に基づき研究目的を明確に設定する。そのうえで適切な研究方法を選択し、調査を行う。各自の調査の途中経過について報告会を開き討議する。	対面
OATAQ03	国語教育学研究III	2	3.0	2	通年	応談	長田 友紀, 馬場美佳, 石塚 修, 島田 康行, 橋本 修, 吉森 佳奈子, 稀代麻也子, 今田 水穂, 那須 昭夫, 田川 拓海, 勝田 光, 菊池 そのみ	国語科の各領域に関する研究について、各自の研究目的にしたがって、適切な研究方法で調査を行う。そのうえでそれらを総合的に考察し修士論文を執筆する。適切な研究方法を選択し、調査を行う。各自の調査の途中経過について報告会を開き討議する。	対面

専門科目(社会科教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATAR01	地理教育学研究I	2	3.0	1	通年	応談	森本 健弘, 山中 勤, 金 玗辰	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。発表にあたっては、担当教員から事前に個別指導を受け、それに基づいて発表に臨むことにする。なお、ゼミには履修者とともに担当教員が複数名参加して、各人の発表に対して協議を行う。授業では基本的に、1時間に一人のペースで発表を継続させる。授業で受けた助言については、次の発表に生かす形で、地理教育学に関する能力を一步一步上達させることを目的とする。	
OATAR02	地理教育学研究II	2	3.0	2	通年	応談	森本 健弘, 山中 勤, 金 玗辰	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。地理教育学研究Iで身に付けた基礎的な知識や技能を活用しながら、履修者は個別の研究テーマをさらに深く、主として修士論文の作成を目指して、研究を展開する。修士論文のテーマとしては、大きく、地理教育学に関するものと地理学に関するものの二つが考えられる。しかし、この二つは互いに往還するものであるため、修士論文には当然これらが統合されることが目指されるはずである。	
OATAR03	地理教育学研究III	2	3.0	2	通年	応談	森本 健弘, 山中 勤, 金 玗辰	地理教育学研究Iと地理教育学研究IIの授業を踏まえて、2回実施される修士論文指導会(1年次の2月と2年次の10月)と1回開催される修士論文発表会(2年次の1月)において個人発表を行い、大学院2年間の学習成果として修士論文を完成させる。また、発表に先立って、指導教員からの個別指導を受けることを前提とする。修士論文発表会には、これまで主として地理教育学関連の教員から受けてきた指導に加え、歴史教育学及び公民教育学の教員からも指導・助言を受けることになる。こうすることで、地理と歴史と公民を総合させた社会科教育学としてのアイデンティティが担保された修士論文が完成することになる。	
OATAR04	歴史教育学研究I	2	3.0	1	通年	応談	國分 麻里, 谷口 陽子, 上田 裕之	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。発表にあたっては、担当教員から事前に個別指導を受け、それに基づいて発表に臨むことにする。なお、ゼミには履修者とともに担当教員が複数名参加して、各人の発表に対して協議を行う。授業では基本的に、1時間に一人のペースで発表を継続させる。授業で受けた助言については、次の発表に生かす形で、歴史教育学に関する能力を一步一步上達させることを目的とする。	

OATAR05	歴史教育学研究II	2	3.0	2	通年	応談	國分 麻里 谷口 陽子, 上田 裕之	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。歴史教育学研究Iで身に付けた基礎的な知識や技能を活用しながら、履修者は個別の研究テーマをさらに深め、主として修士論文の作成を目指して、研究を展開する。修士論文のテーマとしては、大きく、歴史教育学に関するものと歴史学に関するものの二つが考えられる。しかし、この二つは互いに往還するものであるため、修士論文には当然これらが統合されることが目指されるはずである。
OATAR06	歴史教育学研究III	2	3.0	2	通年	応談	國分 麻里 谷口 陽子, 上田 裕之	歴史教育学研究Iと歴史教育学研究IIの授業を踏まえて、2回実施される修士論文指導会(1年次の2月と2年次の10月)と1回開催される修士論文発表会(2年次の1月)において個人発表を行い、大学院2年間の学習成果として修士論文を完成させる。また、発表に先立って、指導教員からの個別指導を受けることを前提とする。修士論文発表会には、これまで主として地理教育学関連の教員から受けてきた指導に加え、地理教育学及び公民教育学の教員からも指導・助言を受けることになる。こうすることで、地理と歴史と公民を総合させた社会科教育学としてのアイデンティティが担保された修士論文が完成することになる。
OATAR07	公民教育学研究I	2	3.0	1	通年	応談	唐木 清志, 森 直 人, 鈴木 創, 星野 豊	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。発表にあたっては、担当教員から事前に個別指導を受け、それに基づいて発表に臨むことにする。なお、ゼミには履修者とともに担当教員が複数名参加して、各人の発表に対して協議を行う。授業では基本的に、1時間に一人のペースで発表を継続させる。授業で受けた助言については、次の発表に生かす形で、公民教育学に関する能力を一步一步上達させることを目的とする。
OATAR08	公民教育学研究II	2	3.0	2	通年	応談	唐木 清志, 森 直 人, 鈴木 創, 星野 豊	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。公民教育学研究Iで身に付けた基礎的な知識や技能を活用しながら、履修者は個別の研究テーマをさらに深め、主として修士論文の作成を目指して、研究を展開する。修士論文のテーマとしては、大きく、公民教育学に関するものと社会諸科学・人文諸科学(社会学、経済学、法律学、倫理学、哲学等)に関するものの二つが考えられる。しかし、この二つは互いに往還するものであるため、修士論文には当然これらが統合されることが目指されるはずである。
OATAR09	公民教育学研究III	2	3.0	2	通年	応談	唐木 清志, 森 直 人, 鈴木 創, 星野 豊	公民教育学研究Iと公民教育学研究IIの授業を踏まえて、2回実施される修士論文指導会(1年次の2月と2年次の10月)と1回開催される修士論文発表会(2年次の1月)において個人発表を行い、大学院2年間の学習成果として修士論文を完成させる。また、発表に先立って、指導教員からの個別指導を受けることを前提とする。修士論文発表会には、これまで主として地理教育学関連の教員から受けてきた指導に加え、地理教育学及び歴史教育学の教員からも指導・助言を受けることになる。こうすることで、地理と歴史と公民を総合させた社会科教育学としてのアイデンティティが担保された修士論文が完成することになる。

専門科目(数学教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAS01	数学教育学研究I	2	3.0	1	通年	応談	蒔苗 直道, 清水 美憲, 小松 孝太郎	1年生を対象に、数学教育における目標論、数学教育史、教育課程論、教授学習論、教材開発論等の多面的な研究動向を踏まえながら、数学教育研究の指導を行い、教育学における研究方法論を踏まえ、論文指導を行う。特に、各自の問題意識に基づいて数学教育に関する諸問題についてレポートをまとめ発表する。レポートに基づく討議を通して、研究課題を明確化し、修士論文を作成するための準備を行う。	
OATAS02	数学教育学研究II	2	3.0	2	通年	応談	蒔苗 直道, 清水 美憲, 小松 孝太郎	2年生を対象に、1年次の学修成果に基づいて、数学教育における目標論、数学教育史、教育課程論、教授学習論、教材開発論等の多面的な研究動向を踏まえながら、数学教育研究の指導を行い、教育学における研究方法論を踏まえ、論文指導を行う。特に、各自の問題意識に基づいて数学教育に関する諸問題についてレポートをまとめ発表する。レポートに基づく討議を通して、修士論文の論構成を行い、内容を整理する。	14条対応

OATAS03	数学教育学研究III	2	3.0	2	通年	応談	蒔苗 直道, 清水美憲, 川村 一宏, 竹山 美宏, 増岡 彰, 木下 保, 小松 孝太郎, 塩谷 真弘, 照井 章, 木村 健一郎	数学教育における目標論、数学教育史、教育課程論、教授学習論、教材開発論等の多面的な研究動向を踏まえながら、数学教育研究の指導を行い、教育学における研究方法論を踏まえ、論文指導を行う。特に、各自の問題意識に基づいて数学教育に関する諸問題についてレポートをまとめ発表する。レポートに基づく実証的な討議を通して、修士論文を執筆する。	14条対応
---------	------------	---	-----	---	----	----	--	---	-------

専門科目(理科教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAT01	理科教育学研究I	3	3.0	1	通年	応談	山本 容子, 遠藤 優介, 受川 史彦, 中務 孝, 野村 晋太郎, 森 正夫, 森下 将史, 吉川 正志, 一戸 雅聡, 佐藤 智生, 長友 重紀, 澤村 京一, 出川 洋介, 中山 剛, 八畑 謙介, 石川 香, 横井 智之, 角替 敏昭, 上松 佐知子, 興野 純, 藤野 滋弘	理科教育の各専門領域ならびに複合領域に関する研究方法・教育方法を習得させると共に、理科教育の観点から修士論文着手の指導を行う。具体的な授業内容は、修士論文完成までのプロセスの概要説明、研究倫理と情報倫理、中学校理科における教育方法、高等学校理科における教育方法、教育方法の観点から見た中学校理科と高等学校理科の接続・一貫性、理科教育学研究における研究方法、理科教育学研究における機器の取り扱い、先行研究の検索方法、外国語文献・資料の検索方法、研究テーマの構想と先行研究の収集、先行研究の分析などである。この授業により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力の向上を図る。	
OATAT02	理科教育学研究II	3	3.0	2	通年	応談	山本 容子, 遠藤 優介, 受川 史彦, 中務 孝, 野村 晋太郎, 森 正夫, 森下 将史, 吉川 正志, 一戸 雅聡, 佐藤 智生, 長友 重紀, 澤村 京一, 出川 洋介, 中山 剛, 八畑 謙介, 石川 香, 横井 智之, 角替 敏昭, 上松 佐知子, 興野 純, 藤野 滋弘	理科教育の各専門領域に関する研究方法・教育方法を習得させると共に、理科教育の観点からの修士論文作成の指導を行う。具体的な授業内容は、修士論文作成に関するスケジュールの確認、研究倫理と情報倫理、年間研究計画の確認と見直し、修士論文における図・表・引用文献リストの作成方法、章立ての検討、各章(研究背景、研究目的、研究方法、研究結果など)の執筆および推敲である。この授業により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力の向上を図る。	14条対応
OATAT03	理科教育学研究III	3	3.0	2	通年	応談	山本 容子, 遠藤 優介, 受川 史彦, 中務 孝, 野村 晋太郎, 森 正夫, 森下 将史, 吉川 正志, 一戸 雅聡, 佐藤 智生, 長友 重紀, 澤村 京一, 出川 洋介, 中山 剛, 八畑 謙介, 石川 香, 横井 智之, 角替 敏昭, 上松 佐知子, 興野 純, 藤野 滋弘	各自の問題意識に基づく研究課題について調査・分析を行った結果の発表や討議により、研究内容の問題点を先鋭化し、より理解を深めた考察を行い、内容の整理を行うとともに、他者の研究についても議論に参加する	14条対応

専門科目(国際教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATAX01	国際教育学研究I	2	3.0	1	通年	応談	濱田 博文, 藤田 晃之, 田中 正弘, タスタンベコフ クアニシ, 菊地 かつお, 古田 雄一	国際教育学に関する理論枠組みと研究方法を修得し、研究計画を定めることを目標とする。そのために、国際教育学に関する研究を展開する上での、基礎的な理論と方法を学ぶ。授業では、先行研究の整理及び研究方法について概説するとともに、教育の国際化・グローバル化、国際機関(ユネスコ)やOECD、国際バカロレア教育に関する文献の講読を行い、国際教育学研究における理論枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究計画を発表し、フィードバックを得る。	14条対応
OATAX02	国際教育学研究II	2	3.0	2	通年	応談	濱田 博文, 藤田 晃之, 田中 正弘, タスタンベコフ クアニシ, 菊地 かつお, 古田 雄一	国際教育学に関する研究の展開を通して、専門的な知識と汎用的なスキルを身につけることを目標とする。国際教育学に関する専門的な知識を修得し、データの収集・分析を進める。授業では、教育の国際比較研究、学校改革と教師の専門性、キャリア教育・シティズンシップ教育、国際教育協力に関する文献の講読を行い、国際教育学研究における分析枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究の進捗状況を発表し、フィードバックを得ることによって研究の質を向上させる。	14条対応

OATAX03	国際教育学研究 III	2	3.0	2	通年	応談	濱田 博文, 藤田 晃之, 田中 正弘, タスタンベコワ クアニシ, 菊地 かつお, 古田 雄一	国際教育学に関する専門的な知識と汎用的なスキルをもとに、研究成果の発信方法とその応用可能性を検討し、教育政策・実践への提言を行うことを目標とする。国際教育学に関する専門的な知識に基づき、データの分析・解釈を進める。授業では、国際教育に関連する文献を手がかりとして、データの分析及び解釈の妥当性について検討を行う。また、各自の研究成果を発表し、フィードバックを得ることによって研究成果の発信方法とその応用可能性を検討する。	14条対応
OATAX04	International Baccalaureate Education Graduate Seminar I	2	3.0	1	通年	応談	濱田 博文, 藤田 晃之, 田中 正弘, タスタンベコワ クアニシ, 菊地 かつお, 古田 雄一	国際バカロレア教育を中心とした教育に関する理論枠組みと研究方法を修得し、研究計画を定めることを目標とする。そのために、国際バカロレア教育を中心とした教育研究を展開する上での、基礎的な理論と方法を学ぶ。授業では、先行研究の整理及び研究方法について概説するとともに、教育の国際化・グローバル化、国際バカロレア教育の教授法・カリキュラム・アセスメントに関する文献の講義を行い、国際バカロレア教育研究における理論枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究計画を発表し、フィードバックを得る。	This is a required course and is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. 英語で授業。14条対応
OATAX05	International Baccalaureate Education Graduate Seminar II	2	3.0	2	通年	応談	濱田 博文, 藤田 晃之, 田中 正弘, タスタンベコワ クアニシ, 菊地 かつお, 古田 雄一	国際バカロレア教育を中心とした教育研究の展開を通して、専門的な知識と汎用的なスキルを身につけることを目標とする。国際バカロレア教育に関する専門的な知識を修得し、データの収集・分析を進める。授業では、国際バカロレア教育の国際比較研究、ディプロマ・プログラム(DP)、中等教育プログラム(MYP)、初等教育プログラム(PYP)、概念学習、探究学習に関する文献の講義を行い、国際バカロレア教育研究における分析枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究の進捗状況を発表し、フィードバックを得ることによって研究の質を向上させる。	This is a required course and is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. 英語で授業。14条対応
OATAX06	International Baccalaureate Education Graduate Seminar III	2	3.0	2	通年	応談	濱田 博文, 藤田 晃之, 田中 正弘, タスタンベコワ クアニシ, 菊地 かつお, 古田 雄一	国際バカロレア教育に関する専門的な知識と汎用的なスキルをもとに、研究成果の発信方法とその応用可能性を検討し、教育政策・実践への提言を行うことを目標とする。国際バカロレア教育に関する専門的な知識に基づき、データの分析・解釈を進める。授業では、国際バカロレア教育に関連する文献を手がかりとして、データの分析及び解釈の妥当性について検討を行う。また、各自の研究成果を発表し、フィードバックを得ることによって研究成果の発信方法とその応用可能性を検討する。	This is a required course and is aligned with the learning outcomes associated with the IB educator certificate. 英語で授業。14条対応